

2020-21年度

国際ロータリー第2690地区

地区大会 記念誌

2020年

10月17日^土・18日^日



Rotary International
District 2690



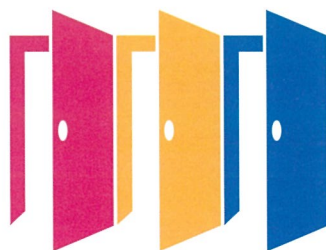
District Conference

2020 – 21

RI Theme

Rotary Opens Opportunities

Oct.17,18,2020
Okayama City



Rotary Opens Opportunities

地区スローガン
「こころの扉を開こう」

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

地区大会プログラム概要

10月10日(土)

- 記念テニス大会 10：00～ 試合開始
会場 岡山県総合グラウンド内
南テニスコート

10月17日(土)

- 会場 岡山国際ホテル
- 第2回ガバナー補佐会 11：00～12：00
 - 第2回諮問委員会 12：30～13：50
 - 地区大会各種委員会
(登録・信任状・選挙管理・大会決議)
14：00～14：30
 - 地区指導者育成セミナー 14：40～16：40
 - ガバナー補佐・会長・幹事会
17：00～17：40
 - 国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会
18：00～20：30
 - 活動パネル展示 14：00～20：30

10月18日(日)

- 会場 岡山国際ホテル
- 本会議 10：00～17：00
 - 活動パネル展示 10：00～15：00



CONTENTS

■地区大会記録		
国際ロータリー会長 プロフィール	4	
国際ロータリー会長 メッセージ	5	
国際ロータリー会長代理 プロフィール	6	
地区ガバナー プロフィール	7	
■地区大会 スナップ		8
■地区指導者育成セミナー		
開会のことば	地区代表幹事 末吉 誠一	18
地区ガバナーあいさつ	地区ガバナー 菊池 捷男	
国際ロータリー会長代理ごあいさつ	国際ロータリー会長代理 木下 光一	19
講話『変化の時代に』	地区研修リーダー 末長 範彦	20
基調講演『ロータリーを楽しむと人生が変わる』	ポリオ根絶コーディネーター(第3地域) 松本 祐二	21
特別講演『ロータリーで学んだリーダーシップ』	国際ロータリー会長代理 木下 光一	23
謝 辞	地区ガバナー 菊池 捷男	30
■ガバナー補佐・会長・幹事会		
2019-20年度地区決算報告	直前地区代表幹事 岸 篤彦	31
2019-20年度地区監査報告	バストガバナー 庄司 尚史	
2019-20年度地区決算承認および採択	地区ガバナー 菊池 捷男	
登録委員会報告	登録委員会委員長 丸川眞太郎	32
信任状委員会報告	信任状委員会委員長 古瀬 俱之	
選挙管理委員会報告	選挙管理委員会委員長 末長 範彦	33
決議報告	地区ガバナー 菊池 捷男	
大会決議委員会報告	大会決議委員会委員長 庄司 尚史	34
閉会のことば	地区副代表幹事 桑原 一	
■本会議		
開会宣言	地区大会総括責任者 山下日出夫	36
開会あいさつ	地区大会実行委員長 松田 正己	37
歓迎のことば	ホストクラブ会長 藤原 恵子	
来賓祝辞	岡山県副知事 菊池 善信	38
来賓祝辞	岡山市長 大森 雅夫	
地区ガバナーあいさつ	地区ガバナー 菊池 捷男	39
国際ロータリー会長代理ごあいさつ・国際ロータリー現況報告	国際ロータリー会長代理 木下 光一	40
2019-20年度地区会計報告	2019-20年度地区会計長 廣原 俊平	45
登録委員会報告	登録委員会委員長 丸川眞太郎	
信任状委員会報告	信任状委員会委員長 古瀬 俱之	46
選挙管理委員会報告	選挙管理委員会委員長 末長 範彦	
大会決議委員会報告	大会決議委員会委員長 庄司 尚史	47
決議採択	地区ガバナー 菊池 捷男	
記念事業発表	記念事業委員会委員長 加計 役	48
お礼のことば	岡山市教育委員会教育長 菅野 和良	49
地区ガバナーエレクトあいさつ	地区ガバナーエレクト 岩崎 陽一	
地区ガバナーノミネーあいさつ	地区ガバナーノミネー 友末 誠夫	50
次期開催地ホストクラブあいさつ	次期地区大会実行委員長 田中 章夫	
記念講演『「はやぶさ式思考法」で令和の日本を拓く』	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) シニアフェロー 川口淳一郎	51
国際ロータリー会長代理 講評	国際ロータリー会長代理 木下 光一	54
地区ガバナー謝辞	地区ガバナー 菊池 捷男	55
閉会あいさつ	地区代表幹事 末吉 誠一	
■地区大会資料		
物故会員	56	
表 彰	57	
ご来賓・特別招待者・特別参加者	59	
地区運営役員・地区大会各種委員会・地区大会実行委員会	60	
地区大会参加登録者数	61	
地区大会決算報告	62	
■地区大会を振り返って	地区ガバナー 菊池 捷男	63

国際ロータリー会長 プロフィール



2020-21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

ヘルツォークトゥム・ラウエンブルグ・
メルンロータリークラブ所属
ドイツ

1992年にロータリー入会。

ロータリーの財務長、理事、モデレーター、各種委員会の委員や委員長、規定審議会代表議員、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、地区ガバナー、2019年ハンブルグ国際大会ホスト組織委員会の共同委員長を歴任。現在は、恒久基金／大口寄付アドバイザーを務める。

不動産業を営む「Knaack KG」のCEO。125年続く家族事業の「Knaack Enterprises」の元パートナー兼ゼネラルマネジャー。

地域社会では、ラッツェブルグ市市民財団の創設メンバーであり、Gut Grambekゴルフクラブの会長を務めた経験を持つ。カール・アダム財団の会長で創設者。スザンヌ夫人とともにメジャードナー、遺贈友の会会員としてロータリー財団を支援。

A handwritten signature in black ink that reads "Holger Knaack". The script is fluid and cursive.

2020-21年度国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク



国際ロータリー会長 メッセージ

朋友ロータリアン、ローターアクター、ロータリーファミリー、友人の皆さま

この度は、2020 - 2021 年度地区大会へようこそお越しくございました。

新型コロナウイルスの流行によって世界を変りましたが、ロータリーの地区大会は継続して開催され、今まで以上にロータリーの未来にとって重要な行事となります。

ロータリーでもさまざま運営方式が変わり、この危機が過ぎ去った後には、新たな現実が待ち受けているでしょう。今こそ、私たちがロータリーの中核的価値観を見直し、自分たちにとってなぜロータリーが重要なのか、今後もロータリーを守っていくために必要な資質は何かを考える必要があります。

ロータリーへの入会理由やなぜロータリーに留まり続けるのかを問うとき、多くの答えが存在するでしょう。世界各地のそれぞれの会員がロータリーに対して異なる思いを抱いているだけでなく、私たち一人ひとりにとってロータリーは独自の意味をもつ存在となっています。しかし、共通点もあります。まず、私たちはみな、ロータリーの価値観、そして四つのテストに示される共通の倫理感を共有しています。二つ目に、私たちは友情を深め、互いに同じ時間を過ごすことを大切にしています。三つ目に、私たちは人びとを助けることを重んじ、「超我の奉仕」の理念に身を捧げています。

現在、直接顔を合わせる会合ができず、この状況がどのくらい続くのか分かりません。しかし、共に集うということは、私たちが共有するロータリーでの経験の一つにすぎず、ほかのことは何一つ変わりません。私たちは現在、オンラインで集い、パソコン画面で互いの顔を見ながら、ディスカッションをし、講演を聞き、新しいプロジェクトの計画を立てることができます。このような危機の中にあっても、「ロータリーは機会の扉を開く」のです。

地区大会は、私たちが力を結集し、よりインパクトの大きなロータリーの奉仕について考え、会員の積極的な参加を促す機会となります。今年度、私たちはロータリーの成長に力を注ぎます。しかし、私にとって、ロータリーの成長とは、新会員がクラブに馴染めるように特別の配慮をしたり、すべての会員が積極的に参加していけるように取り組むことを通じて、会員を思いやることを意味します。

皆さまがこの地区大会でアイデアを寄せ、活気を高めてくださることを願っています。ロータリーでのリーダーという重要な役割を担っていただいていること、そして、刻々と変化する時代を生き抜くためにご尽力いただいていることに、心より感謝いたします。

直接顔を合わせる場合も、オンラインの場合も、地区大会はアイデアを共有し、私たち自身や私たちが奉仕する人たちにとってロータリーがいかに扉を開くかを示す素晴らしい機会です。

皆さまに感謝いたします。

心を込めて



国際ロータリー会長代理

木下 光一

■略歴

- 1972年 京都大学工学部卒業
- 1977年 木下不動産鑑定事務所創業
- 1990年 (株)地域科学研究所創業代表取締役就任
- 2015年 (株)地域科学研究所ホールディングス設立
代表取締役就任
(株)地域科学研究所代表取締役会長就任
現在に至る

■公職

- 1988年 (社)別府青年会議所理事長
- 1989年 日本青年会議所大分ブロック協議会会長
- 1998年 大分県中小企業家同友会代表理事－2013年まで

■ロータリー関係

- 1992年 大分城西ロータリークラブ入会
- 2007年 大分城西ロータリークラブ会長
- 2010年 国際ロータリー第2720地区ガバナー
- 2012年 国際ロータリー第3ゾーンロータリー財団地域コーディネーター補佐
- 2012－13年 国際ロータリー第2720地区研修リーダー
- 2012－15年 (公財)ロータリー米山記念奨学会評議員
- 2014－17年 RIJYEC・RIJYEM社員
- 2014・15年 ロータリー研究会第1・2・3ゾーン 実行委員長
RLI地区代表委員
- 2015年 規定審議会地区補欠議員
- 2017－18年 国際ロータリー研修リーダー
- 2018年 国際ロータリー第2680地区RI会長代理
- 2018年 GETSチームリーダー
国際ロータリー第2530地区RI会長代理
- ロータリー財団メジャードナー (レベル2)
ベネファクター
ポール・ハリス・ソサエティ会員
第12回米山功労者メジャードナー



地区ガバナー プロフィール



地区ガバナー

菊池 捷男

■略歴

- 1967年 3 月 岡山大学法文学部法学科卒業
- 1970年 4 月 弁護士登録（岡山弁護士会所属）
- 1971年 6 月 菊池捷男法律事務所開所
- 2013年 5 月 弁護士法人菊池綜合法律事務所設立
現在に至る

■ロータリー歴

- 1982年 7 月12日 岡山西ロータリークラブ入会
- 1989－90年度 岡山西ロータリークラブ幹事
- 2002－03年度 岡山西ロータリークラブ第42代会長
- 2006－07年度 第11グループガバナー補佐
- 2018－19年度 地区ガバナーノミニー
- 2019－20年度 地区ガバナーエレクト

ロータリー財団メジャードナー（レベル1）

ベネファクター

ポール・ハリス・ソサエティ会員

第10回米山功労者メジャードナー

地区指導者育成セミナー





ガバナー補佐・会長・幹事会



国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会





本会議



本会議





表彰者



ロータリー会長特別賞



ロータリー財団特別功労賞



米山寄付達成クラブ賞



ロータリー財団地区奉仕賞



地区目標達成賞



古瀬俱之地区ガバナー賞



菊池捷男地区ガバナー特別賞



ローターアクト地区功労賞



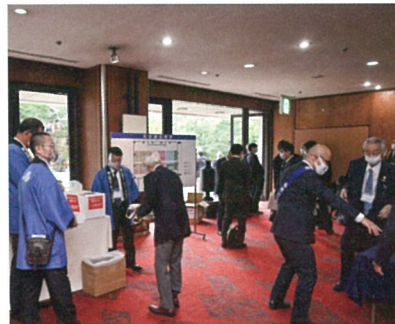
地区ガバナーユニーク・ロータリアン賞



感謝状



会場風景



テニス大会・成績

2020-21年度 国際ロータリー第2690地区 地区大会記念テニス大会

2020年10月10日（土）
会場：岡山県総合グラウンド



決勝戦スコア 草加あゆみ（備前 RC） 6 - 1 谷口 貴久（備前 RC）
松岡 徹（岡山 RC） 高橋 功一（浜田 RC）

※ 6 ゲーム先取※

敬称略

順位	名前	所属クラブ	名前	所属クラブ
優勝	草加あゆみ	備前RC	松岡 徹	岡山RC
準優勝	谷口 貴久	備前RC	高橋 功一	浜田RC
3位	河原 昭文	岡山RC	遠部日出夫	岡山南RC
4位	山口 哲史	岡山RC	開保津勝矢	岡山RC
5位	川野 壮一	岡山南RC	古志 勝俊	松江南RC
6位	小林 和義	岡山西南RC	中井 拓司	岡山東RC
7位	佐々木良二	浜田RC	草加 勝康	備前RC
8位	大内 章智	松江南RC	十鳥 圭祐	岡山西南RC
9位	清水 信義	岡山RC	杉本 康成	岡山北RC
10位	山本由佳里	倉敷南RC	光岡 政和	岡山後楽園RC
11位	高橋 茂樹	岡山北RC	西岡 貞則	岡山北西RC
12位	小林 典子	岡山西南RC	前田 俊彰	岡山北RC



プログラム 第1日目 10月17日(土)

◆地区指導者育成セミナー

会場 岡山国際ホテル 瑞光の間
司会 地区副代表幹事 岸 幹二

- 14:40 開会・点鐘 地区ガバナー 菊池 捷男
開会のことば 地区代表幹事 末吉 誠一
国歌「君が代」斉唱 ソングリーダー 上田 秀一
ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
ソングリーダー 上田 秀一
ご来賓ならびに地区役員紹介
地区ガバナー 菊池 捷男
地区ガバナーあいさつ 地区ガバナー 菊池 捷男
国際ロータリー会長代理ごあいさつ
国際ロータリー会長代理 木下 光一
講話「変化の時代に」 地区研修リーダー 末長 範彦
基調講演「ロータリーを楽しむと人生が変わる」
ポリオ根絶コーディネーター(第3地域) 松本 祐二
特別講演「ロータリーで学んだリーダーシップ」
国際ロータリー会長代理 木下 光一
16:40 謝辞 地区ガバナー 菊池 捷男

◆ガバナー補佐・会長・幹事会

- 17:00 2019-20年度地区決算報告 直前地区代表幹事 岸 篤彦
2019-20年度地区監査報告 バストガバナー 庄司 尚史
2019-20年度地区決算報告の承認および採択
地区ガバナー 菊池 捷男
地区大会各種委員会報告
登録委員会報告 登録委員会委員長 丸川真太郎
信任状委員会報告 信任状委員会委員長 古瀬 俱之
選挙管理委員会報告 選挙管理委員会委員長 末長 範彦
決議 地区ガバナー 菊池 捷男
大会決議委員会報告 大会決議委員会委員長 庄司 尚史
閉会のことば 地区副代表幹事 桑原 一
17:40 閉会・点鐘 地区ガバナー 菊池 捷男

◆国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

会場 岡山国際ホテル 丹頂の間
司会 地区幹事 福嶋裕美子

- 18:00 開宴
国際ロータリー会長代理ご夫妻ご入場
アトラクション／5次元キーボード・パフォーマー
藪井 佑介
開宴のことば 地区大会実行委員長 松田 正己
国際ロータリー会長代理ご夫妻紹介
地区ガバナー 菊池 捷男
ご来賓紹介 地区ガバナー 菊池 捷男
歓迎のことば 地区ガバナー 菊池 捷男
国際ロータリー会長代理ごあいさつ
国際ロータリー会長代理 木下 光一
乾杯 直前ガバナー 古瀬 俱之
食事・歓談
閉宴のことば ホストクラブ会長 藤原 恵子
国際ロータリー会長代理ご夫妻ご退場
20:30 閉宴

●開会のことば



地区代表幹事

末吉 誠一

ただいまより2020-21年度国際ロータリー第2690地区 地区指導者育成セミナーを開催いたします。

●地区ガバナーあいさつ



地区ガバナー

菊池 捷男

皆さま、こんにちは。ガバナーとしてごあいさつさせていただきます。

本日は、地区大会前日の地区指導者育成セミナーの日です。今年度はコロナ禍の影響を受けて、これまで十分な研修ができたとは言えない中でしたが、満を持してのセミナーを開催いたします。

はじめに、地区研修リーダーである末長範彦さんから「変化の時代に」と題する講話を、次いで当地区パストガバナーで、ポリオ根絶コーディネーターである松本祐二さんから「ロータリーを楽しむと人生が変わる」と題する基調講演をしていただきます。

最後に国際ロータリー会長代理の木下光一様から「ロータリーで学んだリーダーシップ」と題して特別講演をしていただきます。木下様にはよろしくお願いいたします。

皆さまには大変有益な一日になるのではないかと思います。ありがとうございました。



●国際ロータリー会長代理 ごあいさつ



国際ロータリー会長代理

木下 光一

皆さまこんにちは、ちょっとマスクを外しますね。声が出にくいので。

私は本地区大会にRI会長代理として派遣をされました木下光一と申します。第2720地区で、2010-11年度のガバナーを務めさせていただきました。いわゆる震災年度でございました。ですから、震災以降は震災の関心の復興や支援のことばかりで、あとはさっと終わってしまいました。私どもは、地区大会をやったのですが、多くの地区はいわゆる会員研修のような形式に切り替えてやられたというところがほとんどだったかなと思います。もうちょうど10年前になりますが、私にとっては決して忘れることができない一年でありました。ああいう時っていうのは、前例がないわけですから、前はどうかだっかなと思っても、前は何もないわけですので、自分で考えてどうするべきかをやったことが思いだされます。

でも、そのことが、その後の自分もそうですし、同じロータリアンの皆さま方もいろいろ勉強することはあるのだけれど、勉強して、それを実践に生かさなければ、何の意味もないということです。学校で勉強するわけではないので、資料があつて、上手に覚えて、満点の答案をいくら作っても、ロータリーの実践の場面では意味がないわけです。

そういう意味では、ロータリーの本質を否が応にも考える機会になったのかなと思います。それから10年経ちまして、コロナ禍も前例がない。そういう時期に我々は直面しています。

東日本大震災の後も、日本はいろいろ変わったと思います。人々の考え方が変わったと思いますし、ロータリーでもいろいろ変化があったと思います。このコロナ禍の後も、きっと大きな変化があると思います。その変化を主体的に乗り切っていく社会のリーダーとしての役割を皆さま方が求められているのだらうと思います。私も皆さま方と一緒に、勉強させていただきながら、少しでもお役に立ちたいと思っています。人間は、一生勉強し続ける存在であるのだらうと思っています。そういう意味でやりがいのある環境に身を置かせていただいていると思います。それも一つの運命でしょうし、チャンスになることだと思っています。ぜひ皆さま方と一緒に大きな成長ができるように頑張っていきたいと思っています。この2日間の地区大会が成功裏に終わりますように、私も精いっぱい務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

● 講話



地区研修リーダー
末長 範彦

「変化の時代に」

ただいま紹介いただきました、第2690地区の地区研修リーダーを仰せつかっております、岡山ロータリークラブの末長範彦です。木下光一様がRI会長代理としてわれわれの地区大会にお越しになり、先ほどごあいさつをいただきました。木下光一様は私がガバナーエレクトのときRI研修リーダーを務められておられ、サンディエゴで大変お世話になりました。

私は地区研修リーダーとしての役目を果たしたいと思います。

本日は地区指導者育成セミナーに会長ならびに幹事の皆さま方に、ご出席いただいております。

『変化の時代に』、皆さんは全体の動向を知り、その中で自分たちの状況を把握しやるべきこと、変えなければならぬことに対応していかなければなりません。

ロータリーの組織状況についてお話ししたいと思います。

1945年に終戦した日本が、ロータリーに復帰したのは1949年、日本は第60地区23ロータリークラブ会員数821人でした。

その時世界では、ロータリークラブ6,834、会員数329,342人でした。その後ロータリークラブは、クラブ数、会員数とも毎年常に増強の一途をたどり続け、戦後50年の1995年、ついに1,208,324人の節目を突破しました。

だが、翌年は終戦後初めて1,206,112人と前年を下回りました。

そして、2000年にはクラブ数も102減となり前後3年間120万人を下回りました。その後はずっと足踏み状況ですが、会員数を120万人台という時代が続きました。

しかし、最近残念ながら、本日の地区大会告知の山陽新聞全ページ広告に見るように、会員数118万人の人数を欠く状況です。

一方、日本ならびに第2690地区は世界が120万人超えをした翌年1996年共にピークを迎え、日本のクラブ数2,214、会員数129,875人、第2690地区66クラブ、会員数4,197人から残念ながら、共に直近の数字「ロータリーの友」10月号では世界36,235クラブ、会員数1,186,144人。日本2,238クラブ、会員数86,089人。第2690地区65クラブ、会員数3,009人です。

		クラブ数	会員数	1クラブ平均会員数
世界	1995年節目	27,486クラブ	1,208,324人	44人
	2020年8月17日発表	36,235クラブ	1,186,144人	33人
	2020-1995 差率	⊕8,749クラブ 131.8%	△22,180人 98.2%	△11人 75.0%
日本	1996年ピーク	2,214クラブ	129,875人	59人
	2020年7月末	2,238クラブ	86,089人	38人
	2020-1996 差率	⊕24クラブ 101.1%	△43,786人 66.3%	△21人 64.4%
2690地区	1996年ピーク	66クラブ	4,197人	64人
	2020年7月末	65クラブ	3,009人	46人
	2020-1996 差率	△1クラブ 98.5%	△1,188人 71.7%	△18人 71.9%

<まとめ>

戦後50年間、ロータリーは世界全体、日本もクラブ数、会員数ともに毎年増加し続けました（クラブ4倍、メンバー3.7倍）。

しかし、2000年頃から世界の会員数は、120万人レベルで足踏み状況が続いており、新たなエリアでクラブを増加することで会員の総数はかろうじて維持されているだけで、既存クラブでは何の解決にもなっていません。

世界中が「コロナ禍」で萎縮している今こそ、2013年にRIがすでにロータリーの近年の組織の内的分析をSiegel & Gale社（世界的ブランド戦略、企業戦略のトップ企画専門集団）で実施した調査報告を考え実行するチャンスだと思います。

- ・ロータリーは成功の強みを既に備えている
- ・各種の専門分野の多様性、指導力と専門性で異なる視点から見ようとしている
- ・長期的な情熱と不屈の精神をもち、グローバルな規模のネットワークを備えている

- ・そして人びとが望むものを提供しようとしている
- ・人と人のつながりがロータリーの原動力であり、ロータリーにとどまり続ける高い理念と実行力を備えている
- ・社会的責任を自覚したリーダー、そして地位でなく、考え方でリーダーを定義する集団である

しかし、その素晴らしさを伝えていない

地域社会に伝えるだけでなく、もっと大切なのは会員に共有されていないことであり、これはロータリーのモメントを会員自身に体験する機会を与えていない。

ロータリーの近年の会員減少をはじめとするあらゆる現状は、ロータリーのもつエネルギーの豊かさ、人財的リーダーシップの多様さ、理念の崇高さ等にもかかわらず、ロータリアンがそれを知らされていない「自己認知学習」の低さが問題であると分析されています。



● 基調講演



ポリオ根絶コーディネーター（第3地域）

松本 祐二

「ロータリーを楽しむと 人生が変わる」

私は2014-15年度にこの第2690地区のガバナーをしていました。少し自己紹介をいたします。私は1952年生まれです。東京の昭和大学医学部を卒業して母校に残っていましたが、1982年に父が益田西RCに在籍中に亡くなり、郷里に帰り八代目の医師として家業を継ぎました。いろんなご縁がありまして益田西クラブに入ってきたのは1986年で、1991年に1度退会しました。クラブに入っても何をしているのか理解できず、クラブを辞めてしまいましたが、1993年にまたクラブに帰ってきました。

クラブに復帰後、1997-98年度クラブ会長をして、2001-02年度にはガバナー補佐を務めました。それで大体ロータリーでの役職は終わったと考えて、後は何もないと信じていましたが、何の因果か、2014-15年度にガバナーをすることになってしまいました。その前の年、ロンD.バートンがRI会長でして、年度のテーマは『ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を』でした。『Engage Rotary Change Lives』でした。ロータリーにエンゲージする、エンゲージリングのエンゲージです。婚約指輪の婚約です。そのような言葉をロータリーで使うのかと思っていました。

エンゲージロータリーという言葉はなぜか頭に残っていて、昨年、ワークエンゲージメントという言葉に出会いました。エンゲージです。ワークエンゲージメントは仕事とエンゲージすることです。不快感を伴って一生懸命仕事しているのはワーカホリック、仕事中毒です。楽しくやっていくのはワークエンゲージメントで、楽しいけれどもあまり活動性がないのはリラックスしているだけ、そして燃え尽き症候群になるのが、不愉快な感情を持ちながら何もできなくなってしまう人たちです。そういう4つの世界があります。ワークエンゲージメントというのは2000年頃から注目され始めた概念で、実は活力とか熱意があり、非常に仕事に前向きな状態だといわれています。

これをロータリーに持ってきたらどうだろうかと考えました。ロータリーエンゲージメントしている人、ロータリー中毒になっている人、そして、クラブ活動には積極的には参加してないけど親睦活動には顔を出すリラックス組そして頑張りすぎてロータリーに燃え尽きてしまう人、ロータリーで頑張っただけに当たったところでやっぱりだめと辞めてしまう人が出てきます。こんなふうに分類するとあなたはどこに行きそうですか？

エンゲージするつもりはなかったのですが、やってみたことで人生が変わってきました。多くの友達に会い、素晴らしい友情が形成されました。

クラブを1度は退会しました。自分で一人になって、医師会の活動だけをしていたときには、何となく毎日が楽しくありませんでした。しかし、振り返ってみるとロータリーに入ってから、多くの他業種の人たちと語り合い、活動することは楽しいものでした。その楽しみを失ったことに気が付いて再入会したのでした。

さて、突然話は変わります。徒然草の157段です。吉田兼好という人が鎌倉時代に筆を執った随筆です。現代文に訳すと、『筆を取れば文の一つも書いてみようかと思う、楽器を手に入れば音を鳴らそうと思うものだ。杯を取れば酒が飲みたいくなり、さいころを持てば博打をしたくなる。心は必ず物事に触れて起こる。悪いことには手を出してはいけないが、たとえば仏教經典の1句を見れば、何となく前後の經文も見えてくる。一瞬にして長年の悪いことを改めることもある。そして、仮にこの經典を広げなかったら、このことを知るだろうか。これこそが仏典、經典に触れることのおかげである。仏を求める心は一向に起こらなくても、仏前にあつて珠を取り、經文を取れば怠けているうちにも良い行いを自然に行うことになり、乱れた心ながらも座禪を組む、椅子に座れば、自覚のないままに禪定の境地に至る』と書かれているのです。

ロータリーに入っても、先輩は手取り足取り教えてくれません。私のときもそうでした。やっていけばそのうち分かるからということですが、やっていても簡単には分かりません。それが最初の退会の理由の一つでした。しかし、ここにあるように『表に表れる現象とその元となっている真理は、もともと二つではない。外部に表れた姿がもし道に背くものでなければ、心の内に真理を悟ることは必ず熟する。あなたがちに不平を言うものではない。仰ぎてこれを尊ぶべきものだ』というのが、この吉田兼好の言葉です。この徒然草の一節を読むと、答えがあることに気が付きました。

この『外相もし背かざれば、内相必ず熟す』という言葉が最後に出てきます。精神科の治療法に森田療法というのがあります。これも、身なりや仕草、時間を守るなどの外相を整えると内相（気持ちや行動が改善）を自ら熟すという、訳が分からずにやっていてもやがて物事が分かるようになって、芯から動くようになれるということを述べています。外相を整えて内相自ら熟す。

クラブに出てきて、何をしているか分かりません。そして、入ると返事は三つ、「はい」と「イエス」と「喜んで」です。

先輩はあなたにこの仕事ができると思うから、やってくれませんか、と頼んできます。断って逃げるのではなく、「はい」と言って受けるのです。受けてできれば、それでいいのです。ただ、受けてもできないこともあります。できなくてもいいのです。頼んだ人に人を見る目がなかったのです。頼まれてできなかったあなたが悪いのではないのです。私も、最初のうちはそれをとても怖がっていました。失敗したら恥ずかしい、失敗したらこの先がなくなる、この年になって恥をかくのは嫌なことです。しかし、途中で考えを変えました。選んだあなたが悪いと、そう思えばいいのです。不思議なことに何度も失敗していると拾ってくださる方が出てくるものなのです。安心してください。

皆さんは、これからクラブのリーダーになっていかれます。荷が重過ぎると思うでしょうが、端で見ている人たちは、信頼してあなたを選ばれました。ロータリーに入るということは社会的にも認められ、事業で成功しているからです。

人を見る目がある人たちの集まりなのです。そこで仕事が出てきたら、やはり「はい」「イエス」と、せっかくのチャンスですから「喜んで」やりましょう。成功すれば評価されます。失敗しても選んだ、頼んだあの人の責任だと思ってしまう方がいいのです。それくらい気楽になさったらいかがでしょうか。嫌々スタートしたとしても、いったんスタートすれば、どうせやるのだから楽しくやろうよと、そのくらいの気持ちになって1年間やればよいのです。ロータリーの良いところは、良くて悪くても1年たってしまうえば終わり、2年やれとは言われません。やりたくても2回目は無いのです。だからここだけ、1年だけ頑張ればいい、そう思ってやりましょう。そういうことが学べたのも、実はクラブ会長時代にいくつか新しい取り組みをしましたが、次の年度にはほとんど元に戻されてしまいました。見事な会長失格者でした。

慶應義塾大学大学院の前野隆司先生が、幸福学の研究をしています。幸せのメカニズムの研究と彼は言っています。この研究の中で、幸せには短期的な幸せと長期的な幸せがあるといわれています。地位とか財産、名声というのは、どちらかというと短期的な幸せが多く幸せの質としては良くないのです。アメリカの統計で見ると、財産に関しては、収入は年間7万5000ドルくらいで頭打ちとなり、そこから先は稼いでも幸せ感が増幅しません。年間1億稼ぐ人が1000万稼ぐ人と比べて10倍幸せかというと、そんなことはありません。衣食足りて礼節を知ると同じようなもので、健康や信頼、理解してもらおうほうが、幸福感が強く長く続きます。

強く長く幸せが続く人を分析してみると、友達は数が多いほうがいい。自分の価値は友達で決まる。質のいい友達をどこで見つけるか。幸い、ロータリークラブは質のいい会員を集めます。友達の数が多くなっても同じような人ばかりではなくて、いろいろな職業、多様な人を集めているためです。多様性のある友達を持つというのは、最近のロータリーの中核的価値観と同じです。この友達作りが幸せ感が強くなります。

そして、他人に感謝している人は幸せを感じていることが多く、他人のためや社会のために活動している人は、より幸福感が高いです。人に授けてもらうよりも、授ける人のほうが幸せです。私たちは一緒にロータリーで、クラブで仲間を作って楽しく例会をします。そして、その上で何か社会奉仕をします。古くは『I serve』という言葉のように、個人がサービスしようというところがありました。しかし、私たちはクラブの活動の中で、一緒にみんなで動いて、みんなに奉仕する活動をしていきます。クラブとしての奉仕もあるでしょうし、

国際ロータリーとしての活動もあるでしょう。奉仕活動をした後、一緒に参加してくださった方々から「ありがとうございました」「おかげさまで」という言葉をいただきます。この言葉がもらえると、本当にどこことなく私たちはうれしくなります。やって良かったと思う奉仕活動が自分の励みになります。そして、それが自分の幸福につながります。

ロータリーに入ってみると一緒に活動することで、私たちはさらに幸せになります。ここを理解すると、クラブでの勧誘に幸せになりますよ、ロータリーはあなたがもっと幸せになる力を持った組織で、あなたが活動してくれると、地域の人や世界の人たちももっと幸せになりますよ、という言葉で、私たちはロータリアンを増やしていくことができるのではないのでしょうか。

『Rotary Opens Opportunities』が、今年のRI会長ホルガー・クナークさんのテーマです。私たちはこの三つの扉『Interact, Rotaract, Rotarian』を介して社会と深くつながり合うことで、自分の人生を変えられます。私もガバナー年度が終わってから、ポリオのグリーンコーディネーターを5年余り務めています。ポリオの話を地区内だけでなく北海道から九州まであちこちで講演してきました。実は青森県の弘前アップルロータリークラブの関場バスターは、20年も毎年インドに通ってポリオのワクチン投与をされていました。私のガバナー年度の、ロータリー財団のセミナーには、関場さんに益田に来ていただいて、お話をしてもらいました。その後日程が合わせられるようになって私もインドへお手伝いに行くことができました。

インドに行った際は、他の地区のロータリアンとも一緒に話をしながら活動し、またそこで友達が増えました。ワクチンを飲ませてもらった母親の、喜ぶ姿がありました。昨年12月にパキスタンにも行ってきました。パキスタンはまだポリオの常在国です。そこで貧民街を回りながら、はだしの子どもたちにポリオのワクチンを飲ませました。新しい仲間が増えます。私はガバナー経験者ですが、普通のロータリアンやローターアクターも参加しています。ロータリーでの活動は大きな目標の中での活動です。世界平和や安全な水を供給することだけでなく地域の清掃活動などでもみんなと行動することで、新しい友ができて、信頼を得ることができて、人生が変わります。

私はこのロータリーに入って、クラブ会長が終わって次のステップに上がっていき初めて経験しましたが、他の地区の人たちはクラブでの経験が浅くても、面白そうだからやってみようという好奇心から、インドにまで出かけています。このロータリーを楽しみ、好奇心を持って行動していただきたい。あなたの人生が変わります。豊かな人生になると思います。

これからクラブのリーダーとして、楽しんでください。ロータリーと一緒に活動するともっと素晴らしい人生が待っています。

最後に一つだけ、『END POLIO NOW』のロゴを貼り付けました。今年はコロナでなかなかポリオの活動ができません。実は今年の12月にまたインドに行く約束をしていましたが、この情勢ですので、インドに行く予定が立ちません。

しかし、寄付をすることで、私たちはその援助をすることができます。私たちの寄付がパキスタン、アフガニスタン、あるいはアフリカの子どもたちを救う活動につながります。ぜひご協力いただきたいということを伝えて、今日の話が終わります。ご清聴どうもありがとうございました。



地区指導者育成セミナー

●特別講演



国際ロータリー会長代理

木下 光一

「ロータリーで学んだ リーダーシップ」

この後の時間を少し頂戴して、『ロータリーで学んだリーダーシップ』についてお話しさせていただきます。

先ほど松本先生が2メートル以上あれば大丈夫だと言われていましたので、私もマスクを外させていただきます。

私はロータリーに入って約30年です。その30年の間、ロータリーで学んできたことについてお話しします。何を学んだかという、たくさん学んでおりますが、私にとって最も大切なものは、やはりリーダーシップだと思っています。ロータリーの根幹というか、最も大事なところは、皆さんご承知のとおり、そこにある五つだと私は思っています。『超我の奉仕』と『最も奉仕する者、最も報いられる』という二つのモットー、ロータリーの目的、四つのテスト、現在は五つある奉仕部門、それから中核的価値観と言われているものがロータリーの根幹をなすものだと承知しております。

そして、それを一応頭の中に入れた上で、ロータリーで得た最大の財産は何かというと、職業奉仕の実践で学んだ、経営者としての姿勢や考え方だと思っています。言い換えると、経営者としてのリーダーシップをロータリーで学ばせていただきました。併せて、社会のリーダーとしてのリーダーシップもあるでしょう。そしてまた、家庭のリーダーとしてのリーダーシップもあります。ちょうどただ今は私の家内がこの場に同席しておりませんので、安心してそのように申し上げます。私は家庭のリーダーとしてきちんと務めを果たしていると思います。そして、第2の奉仕部

門のところに書かれた職業奉仕と、中核的価値観に掲げられた精神です。それは、リーダーとは何かということを示していると思っています。そしてもう一つ、ロータリーで学んだとても重要なもの、それは寛容の精神です。これは、他では決して学ぶことができなかったらと思うています。

ロータリーの中核的価値観、皆さんはもうご存じですから、あまりくどくどとは申し上げませんが、5項目ございます。奉仕、親睦、多様性、高潔性、そしてリーダーシップです。きょうはそのうちのリーダーシップに焦点を当てたいと思います。ではリーダーシップ、リーダーに求められるものはなんでしょう。ロータリーでもいろいろな場面でリーダーを務められます。それはどのようなことを求められているのか、いろいろ考えてみると、最も効果的に、継続的に成果を上げることではないかと思います。それぞれの場面で、直接の目的はいろいろあると思いますが、リーダーとして求められていることを普遍的に言うならば、最も効果的に、継続的に成果を上げることだろうと思います。

では、そのリーダーシップを発揮するのに必要な能力はどのようなことでしょうか。まずは外部環境です。自分の周りの環境を正しく把握することです。これは、言葉ではそれで終わりですが、実は非常に難しいことです。

外部環境を正しく把握するためには、幅広い知識と思考力が必要です。いろいろなことを学んで考える力を自分の中に養っていかないと、なかなか正しく把握することができません。そして、外部環境を把握して、現状があります。そうすると現状とのギャップがありますから、外部環境に合わせて目標を設定します。目標を立てるときには、仮説を立てなければなりません。そうしなければ目標を作れません。この仮説を立てるというのは、これも非常に知的な能力です。そして、それを検証していくわけです。目標を設定して目標を達成する方法を立案する、この辺がいわゆる戦略を立てるという部分です。リーダーとして、必ずこの戦略を立てなければなりません。そして、それに基づいて内部組織を掌握し、強いチームを作っていきます。この内部組織の掌握というのも非常に知的で、なおかつ人間力を必要とする仕事です。そして、ゴールに到達するまでチームを指導します。なかなかゴールには到達しません。やはり辛抱強く指導し続けるというのも、リーダーにとっての非常に重要な能力です。

そして、ゴールに到達すれば、チームの頑張りを称賛して、心から感謝するという、これも大事なところですよ。それがあからみんについてきます。

そして、リーダーあるいはリーダーシップというのは、いろいろなところにありますから、多様ではあります。ただ、よく考えてみると、リーダーシップの本質のようなものは一貫したものとあります。多様などというのは、例えば第一線の段階でのリーダーシップ、当然第一線にもリーダーはいます。それから、組織内の中間にもいます。組織内の上層部にもいますし、トップにも当然、それぞれの場面でリーダーシップがあるわけです。そして、人はこのようなものを経験しながら、また学びながらリーダーシップを身に付けていきます。ただ、経験だけで上のほうの、例えばトップとしてのリーダーになれるかというと、決してなれません。それはなぜかというと、トップにはそれだけの幅広い知識とか、コミュニケーション能力とか、教養が必要です。教養というのは、言い換えると人間力です。それだけのいろいろな深い知識、それを人に伝える力、人と共感する力、これを身に付けていかなければトップのリーダーは務まりません。こういったことを通じて、さまざまな状況においてチームの力を最大に保つことができるようになります。

そしてもう一つ、このような一貫したリーダーシップを発揮するためには、ミッションをしっかりと持っていることです。ミッションが弱いとリーダーシップも弱くなります。では、ミッションというのはなんなのでしょう。職業におけるミッションというのは、企業であれば、いわゆる経営理念というのがあると思います。何のためにこの会社が仕事をしているのか、何を実現するために仕事をしているのかということです。これがあから、それに向かっていろいろな人の力を合わせてやっていけるわけです。経営理念です。ロータリーにもミッションは当然あって、ロータリーのミッションはロータリーの目的に書かれています。そのとおりです。そして、社会生活、いろいろな場面で当然リーダーシップが必要で、そこでも当然ミッションがあります。しかし、よく考えてみるとこれはロータリーとほとんど同じです。言い換えると、ロータリーの精神は人の社会生活全てに関わっていると言ってもいいと思います。

では、そのミッションというのはどのように作るのか、どのように身に付けるのかということです。職業のミッション、先ほどの企業の経営理念と言い換えてもいいですが、それはまさに創業者の人生観や人間観を表しています。全く自分が考えもしないようなことを、絵空事のようなものをいい文章だと思って持ってきて、決して経営理念にはなりません。それはやはり、その人の人生観、人

間観を表しています。そして、その経営理念を掲げて、それに沿って事業を運営していく、その実践がミッションを鍛えてくれます。最初から完成したミッションでないことが多いと思います。だんだんやっていくうちにいろいろなことで磨かれて、本当のミッションになっていくのだろーと思います。そうやって経営している企業には人材が集まってきて、また人が育つ、そういったことが起こってきます。その結果、中長期的な職業や企業の成長がもたらされるのだろーと思います。ミッションというのは課題の解決です。例えば、うちの会社はこういうことをする、これを通じて何を実現すると、そのような組み立てをしてあるかと思っています。それは、その課題を解決して、その先の良い状態のものを作り上げるという意味だと思っています。ですから、社会のさまざまな課題を見つけて、それを解決するというのがミッションだろーと思います。

そう考えると、今、人類共通の課題といわれていることが四つあります。一つはいわゆる人口問題です。日本は人口が減っていますが、世界全体では増えているとか、要するに人口に関する問題です。それから、人類の健康や安全の問題、医療も当然ここに含まれます。そして食料、食料がなければ生きていくことができませんので、当然です。それと重要になるのは環境です。この四つです。

これは人類共通の課題と言われているので、ここにたくさん、その課題を解決することがあるはずですよ。つまり仕事、ビジネスがあるはずですよ。これを一生懸命に研究して深めていくことは、人類に共通している課題ですから、立派なビジネスになっていく可能性があります。

そして、リーダーシップのトップと言ってもいいと思います。上の段階のリーダーシップで大事なことは、有能な人を選んで、細かく口出しせずに任せることです。口で言うのは簡単ですが、実はあまり簡単なことではありません。つい口を出してしまうことが、やはりあるのではないかと思います。これは要するに、人をよく見ていて、育ててきているからできることです。あの人には任せていいと、細かく口出しせずに任せることができます。トップの務めをきちんと果たすことは、一人一人をよく見ていて、きちんと育てるということです。これを一生懸命やり続けることです。そうすると、そういったことができるようになって、どんどん器が大きくなっていきます。

そして、約束を守って責任を取る。これは、トップとしては当然のことです。コミットメントとアカウンタビリティです。そして、前も言いましたが、広い視野を持ってコミュニケーション能力が優秀で、教養、人間力があるということです。教養というのは、今は大学で教養部とかいうのは、もうないのでしょーうか。もう50年も前ですが、われわれの頃はありました。一般的に言って、大学というのは

教養を身に付ける場所だったと思います。いわゆるリベラルアーツを身に付ける場所で、専門的な能力はその先の大学院で学ぶというのが欧米の一般的な考え方だと思います。いわゆるリベラルアーツの部分を身に付けるには、大変な時間がかかります。そのことは前提として知っておかなければなりません。トップを務め続ける人は、それに耐えられるだけの教養を身に付けていかなければなりません。身に付けて終わりではなく、ずっと身に付け続けるということです。

一流になるために、1万時間の法則というのがあります。聞いたことはありますか。1万時間やると、その道の一流になるということです。ただ、これは一つの道で、ここで要求されているのは広い範囲ですから、それがどれだけの時間を要するかということは、想像していただければ分かると思います。1万時間というのは、1日3時間やって年1100時間くらいなので、一流になるためには9年ほどかかります。ですから、教養というのは非常に重たいものです。組織が大きくなればなるほど、そのトップを務めるためにはこれが必要です。先ほども申し上げましたが、リーダーとして環境の認識だとか、目標設定、チームを組織し、目標を共有するということをきちんとやっていて、さらにトップは、組織外のリーダーたちと色々な調整をしなければなりません。これはトップがすることです。

リーダーシップについて、ロータリーに当てはめてみます。皆さんはロータリーの活動の中で繰り返し、あらゆるリーダーを経験します。ロータリーで面白いのは、例えばクラブの委員長をして、次の年はその委員会の一員になるということが普通にあります。なかなか他の団体ではないような気がします。上に階段を上がっていくような感じで配置がなされるのが一般的ではないかと思いますが、ロータリーではそのようなことはありません。リーダーをして、次は一員になるなど、そのようなことを繰り返していきます。それは良いフォロワーでなければ良いリーダーになれません。それがあから、ロータリーはそうにずっとやってきています。どの年でも自分の役割を一生懸命果たしていきます。

そして、ロータリーではありがたいことに、リーダーとして失敗しても、そこには寛容の精神があふれています。これも、なかなか他ではないことだと思います。ですから安心してリーダーを引き受けていただいて、失敗をするといいと思います。それで誰も怒る人はいません。自分もまたその次をチャレンジすればいいのです。このような時間を経て、次第にリーダーシップの本質を体得していく、これがロータリーの中でのリーダーの育ち方だと思います。

ここで職業人としてのリーダーシップに的を絞ってみたいと思います。ここで求められていることは、やはり最も効果的に、継続的に成果を上げることだろうと思います。先ほど申し上げた、一般的なリーダーシップに求められることと全く同じだと思います。ただし、企業ではどのようなことを成果と呼ぶかという点、一般的には売り上げや利益、雇用している社員の数などは当然入ると思います。企業ではなく専門職業の会員さんもロータリーには多く、その場合、私はそのようなことをしているわけではないので、違っているかもしれませんが、利用者の数やお役立ちしている量、質などがあるでしょうし、地域社会との関係で言うと、やはり雇用している職員の数というのもあると思います。

なぜそのようなことを言うかという点、測定可能な物差しをきちんと持っている必要があると思います。売り上げや利益というのは単純にすぐ分かりますが、その他にも大事なことがたくさんあることは、私も承知しています。質などももちろん大事です。ただ、これはなかなか測定することが難しいです。あまり数字は増えなかったけれども、質が向上しているからいい、というのもいいのです。

しかし、長いことそのような状態が続くと、やはり問題があるのではないかと思います。質がずっと上がっているのであれば、それは量などに表れてくるはずですが、また、トップはそれが表れてくるように手を打つはずですが、表れてこないのであれば、やはり何か考えたほうがいいのではないのでしょうか。

ですから、職業人としてのリーダーも、長期的、継続的な成長を目指すというのが大事なのではないのでしょうか。言い換えると、ロータリアンを長くやっていて、その人の職業がどうなってきたかというのは、決定的に重要です。社会的信用、人間の信用、そこに関わることだと思います。やはり私たちの人生の基盤である職業が最高のものになっていかなければ意味がない、十分に生きていると言えないのではないのでしょうか。そういったことをきちんと実現していけば、その結果地域社会から信頼され、なくてはならない企業になれると思います。

企業版の職業奉仕に限定して、もう少し細かく見ていきますと、どのような経営を目指すか、これは私が目指しているということでも結構ですが、年輪経営を目指しています。毎年少しでも、年輪のように、売り上げも利益も社員も増えていくことを目指していきます。ただ、これは目指しているから必ずしもそのとおりになるわけではありませんが、長期的に見ると、毎年必ず少しでも成長していったら、10年たてば2倍くらいになっているとか、そういったことを自分に律しています。ところが、それを実現していくのは簡単ではありません。それは自分でもよく分かってお

りますが、そのために本当に真剣に努力するということです。そして、そのように毎年成長している企業というのは、社員満足度が高いです。当たり前だと思います。毎年売り上げが増えている、利益も増えている、働く仲間も増えていると、やはり元気が出るし、当然そのような状態ですから、給料も増えています。そうすると、やはり社員のモラルが高く、やる気満々です。そのような社員が第一線でお客さまに接して、最高のサービスを提供してくれるので、顧客満足も高いのです。順番は、社員満足が高いからお客さま満足が高くなるので、その反対はあり得ません。そして、これは人を大切にする経営を実践することで実現すると思います。

それでは、人を大切にする経営とはどういうことかという、何のために仕事をするのかなど、その会社の最も大事な価値観である、経営理念の中に、うちは人を大切にしてこのようにやっていくのだということを、はっきり書いてあります。書くことは大事です。そして、そうであれば毎期の経営計画に、そのように人を成長させるための経費、研修費が必ず予算化されています。それを毎年やっていけば、社員もやはり、この会社で本当に自分の全力を発揮して働こうというふうに、だんだん思ってくれます。最初から自分の全能力を発揮して働こうと思っている人は、私は少ないと思います。やはり周りの様子を見ながら、どのくらい働いたらいいかということを見ながら働いているわけです。しかし、やはり周りのそのような働き方をしていけば、自分は自分の持てる能力を全て発揮してやってみようと思って、それが継続していくとすさまじいことが起こります。そして、若い社員の定期採用を毎年やることです。そして教育して、彼らが幹部へと昇進していくことを実現するのです。そして、研修費など人への継続的な投資というのは、人間尊重経営の最も基本的なところ、根幹になることだと私は思います。

『日本でいちばん大切にしたい会社』という本があります。ご覧になったことはありますか。今、1巻から7巻くらいまで出ているかと思います。書かれたのは法政大学の坂本光司元教授で、数年前に定年で退官されました。坂本先生は全国の企業を回られて、地方は中小企業が多いので、中小企業をたくさん回られています。その中で選んで、本に書かれました。本の中でもおっしゃっていますが、まず選ばれる資格が四つほどあります。まず、会社都合の人員整理をしないことです。それから、下請けとの良好な関係があることです。下請けいじめなどは当然駄目です。そして、障がい者雇用です。障がい者の法定雇用率2.2パーセントをきちんと満たしていることです。そして重大な労災事故がないという、この四つを満たしていない所はまず門前払いです。私もここには選ばれたいと

思い努力していますが、残念ながら四つ全部は満たしておりません。

先生は「毎年少しずつ成長し続ける企業はいいですよ」とおっしゃっています。本の中に書かれている、長野県の伊那食品工業という寒天の会社があります。39期か40期くらい、連続増収増益をしている、年商規模で300億くらいの会社で、素晴らしい会社です。実質的創業者はロータリアンです。そこは特別素晴らしい会社です。そういった会社の経営者は、社員の成長が利益の源泉だとはっきりおっしゃっています。ですから、社員にどんどん投資します。そのような会社は、地域から強く必要とされています。この本に書かれている会社のある程度は、ロータリアンが経営しておられる会社です。

それから、経営のキーワードのようなことを少しご紹介しますと、『共創』という言葉、これはお客さまと共に商品やサービスを磨いて創造します。それと『共育』は、例えば、一方的に経営者がいつも先生で社員が生徒というような、固定した関係ではありません。あるときは社員が先生になって経営者と一緒に勉強するなどといったことが、普通に行われます。この共創と共育の二つとも、言うはやすく行うは難し、です。まず共創のほうは、消費者向けの商品サービス、あるいは企業向けなど、もちろんそれぞれ違うのですが、いずれもお客さまから次の商品や、あるいはその商品の改良やサービスについてどんどん要望をいただいています。そして、それを共創ですから、お客さまと一緒に試作して使ってもらうなど、いろいろなことを繰り返して作っていくわけです。ですから、このような会社は、作ったものは売れます。非常に長い時間をかけますが、無駄がほとんどありません。

共育が成立するためには、みんなが考える風土、習慣があります。考えなくていい、上が言ったとおりにしなさいということは全くありません。意見を一人一人の社員が言う、それを大事にする場があります。それを作るときには、やはり経営者の強い意志がなければ、これはできないと思います。普通はできません。そして、時間がかかります。だから、リーダーが必要なのです。それと、若い人の定期採用はやはり大事です。とにかく毎年のように若い人を採用して、教育して、育てていくことをやり続けることです。これの全体を人間尊重経営と言うのだと、私は思います。

その人間尊重経営の中身に入っていきますが、共創というのは先ほども申し上げましたが、そのようなことができるのはお客さまが商品やサービス、そして企業を強く信頼して、ファンようになって、愛着を持っておられるからこそできます。普通は、そのようなことは起こりません。

しかし、一生懸命やっていると必ずそうなります。そし



て、共有はオープンで明るい風土があります。一人一人が存在する場所があり、理由もあるので、いつでも学べるし、誰からでも学べるとみんなが思っています。一人一人が必要とされています。そこには学び続けるのだというマインドが自然に醸成されてきます。そして、人の採用についても、定期的に採用します。人手が足りないから採用するわけではありません。人手が足りないから採用したのは人手であって、人材ではありません。採用された本人が分かっています。自分の会社のために、ひいては地域のために、若い人を定期的に採用して育てていくのです。そして、人が育ってくるので、新しい商品、新しいサービスがそこで作り出されます。企業も成長します。人手が足りないから採用するというのは、全く間違っていると思います。人の成長というのは企業の根幹です。

そして経営者の役割、一部重複するところがあるかもしれませんが、外部環境を正しく把握する、それに適応した戦略を立てる、それを職場の全員が理解して、共に力を合わせるような環境を作ります。この二つは経営者でないとできません。経営者がやるべき仕事です。この二つを実現することです。そして、リーダーとして会社のルールと言ってもいい、ぶれない優先順位があって、1番目は社員とその家族です。2番目が取引先、3番目がお客さま、4番目が地域社会、最後に株主です。このような優先順位がはっきりとあって、どのようなときにもぶれないのを社員がみんな見えています。そこにやはり、強い信頼関係が生まれます。これが出来上がるまでに相当な時間がかかると思いますが、経営者たる者、それに命をかけてやってもいいのだらうと思います。

経営者の役割は社員のモチベーションを高めることです。そうすれば、業績は社員が上げてくれます。業績を上げるのは社員の役割です。ですから、経営者が一生懸命に業績を上げようといういろいろやっても、一時的には上がるかもしれませんが、業績は上がりません。本質をきちんとつかまえます。経営者は経営者にしかできない仕事に集中して取り組むべきです。社員ができることは、社員に任せればいいのです。自信を持ってそのようにやっていくということです。

そして、とても大事なことがここにあります。今は知識基盤社会です。この知識基盤社会の前は何だったかというと、工業社会です。その前は農業社会、農耕社会です。知識基盤社会というのは1980年代の初め頃から始めて、2000年くらいに移行、転換が完了したのだらうと思っています。工業社会とどこが違うかというと、工業社会で大事なものは土地、資本、労働力、大きな工場などです。これに非常に価値があり、利益を生み出しました。ところが、知識基盤社会になるとこういったものは、あるだけで

はほとんど意味がありません。逆に言えば減損の対象になり、マイナスになります。知識基盤社会で最も価値があるのは知識です。知識が価値を生み出します。このことを喝破したのは、アメリカの経営学者ドラッカーです。これは相当な洞察力だと思います。それまでの、これが大事だと言っていたことを完全にひっくり返しました。世の中では現実に起こっていたけれども、誰も分からなかったことです。

これからいわゆるDXが始まってきます。今はDXと言っていますが、実はこの辺から始まっていました。そして、この知識というのは人に付いています。コンピューターの中にもありますが、それを統合したり、まとめたりして何とか使うのは人間ですから、人に付いています。ですから、人を大切にしなければ、企業あるいは組織は発展できない時代になりました。そういう意味でも、人を定期的に採用して育てることがとても大事です。そしてまた、当然、人は働いたら自分が成長できると思う所に行きます。今の若い人たちの、採用の話聞いてみると、自分がどのように成長できるかということに、非常に関心があります。そういったことをやって、結果として企業は年輪経営ができるようになります。環境はいろいろと大きく変化しますので、たくさん成長する年度もあれば、あまり成長できないときももちろんあるでしょう。しかし、年輪を見ると、詰まっている所もあれば、割と成長している所もあるというのは、そういうことなのです。毎年少しずつ増収増益、増員ができるような経営をしたいと思っています。

ですから、この知識基盤社会にあるということをきちんと認識していることは、決定的に重要なことです。そして、この知識基盤社会になってどのようなことが起こったのかについて、分かりやすいのはICT技術が中心になったことです。これは誰でも分かることです。いわゆるデジタルトランスフォーメーション、DXが始まりました。最初はゆっくりでしたが、今はこれがほとんど全てのようなことになっています。そしてICTは単なる道具ではなく、価値を生み出す仕組みそのものになりました。これが実は、なかなか理解されていません。コンピューターは計算する機械だと、パソコンは計算機だという認識だと、全く違います。

その下に、道具として使ったのが多くの日本企業と書いてあるので、そこを説明しますと、1900年代、2000年に近い頃から、今はもうほとんどそうなっているように、日本も含め世界の大企業が、いわゆるERPシステム、エンタープライズ・リソース・プランニングというシステム、人材、資金、会計など企業のいろいろな資源を統合して一括で処理できるシステムです。最も有名なのはドイツのSAPという会社が開発したもので、日本も含め世界の大

企業のほとんどがこのシステムを使っています。この知識基盤社会の中でビジネスをするためには、それほど重要なのです。欧米の企業はほとんどそのSAPのシステムをそのまま導入して、そのまま使っています。日本の大企業はほとんど自社に合わせてカスタマイズして使っています。

この差にどのような意味があるのでしょうか。カスタマイズにお金がかかるということもありますが、それだけではありません。今は多国籍企業、大企業でM&Aはよくあることです。M&Aをして新しい企業を買って、その会社の状況、あるいはその会社を運営するのにシステムが必要になります。同じシステムを使っていればすぐ次の日から使えますが、日本の大企業が海外の会社を買うと、日本のERPはカスタマイズされているので分からず、使えません。あるいは海外だと、転職の度合いが非常に大きいので、人が頻繁に変わります。新しい人が来ても、どこも全く同じシステムなのでそのまま使うことができ、再教育などをあまりしなくて済みます。この差は決定的に大きいのです。

その結果、2000年前頃まで日本の1人当たりGDPや国際競争力は上位2番目や3番目にありましたが、今は、2018年の統計で26位です。恐らく今年の統計が出ると、30位以下になるのではないのでしょうか。1人当たりGDPで言うと、恐らく2020年の確定値が出れば、韓国に抜かれているのではないかと思います。これはDXの遅れそのものです。いわゆる知識基盤社会の本質を十分理解していなかったというか、それまで強かったのが悪かったのです。日本の企業は強かったのです。そのために、変な過信をしてしまいました。だいたい順位が下がり、これからまた頑張れるといいと思います。

こういったことは、日本社会全体の特徴のようなものです。そして、知識基盤社会になって起こったもう一つのこと、当たり前ですが、グローバル化です。知識、情報は簡単に国境を越えます。価値を生み出す源泉は人になり、しかもそれは単なる労働力ではなく、考える人です。一人一人考える人が価値を生み出す源泉になりました。必要なのは、解説や解釈ばかりする人ではなく、アイデアを出す人です。人と違う意見をどんどん出す人です。これは企業組織のあり方に、非常に大きな影響を与えています。

その例を申し上げますと、人の採用や育成、キャリア、働き方改革と言われていますが、これは2000年頃から徐々に始まっていました。例えば、最も目立つのは、大量の新卒一括採用の崩壊です。これはもう崩壊しています。コロナで崩壊したわけではありません。これは知識基盤社会になったから崩壊したのです。例えば最も目立つのは、

メガバンクは毎年1,500人から2,000人近く採用していましたが、今は数百人です。あれは業績が悪いから採用しないわけではありません。前はどこのメガバンクも大きな事務センターがあり、そこで大量のコンピューターのような機械を置いて、人を大量に配置してやっていました。あれが全く要らなくなったので、採用しないのです。そして各人ごとの給与の査定です。前は給与表があり、大体年次ごとに給与が決まっていた。それはなぜかという、同じ仕事をしていたからです。今は、同じ仕事をしている人がたくさんいるというのは非常に危険な状態です。一人一人違う仕事をするという働き方に変わらなければなりません。そうすると給与も、一人一人違います。

このようなことがもう分かっている、教育にも非常に大きな影響を与えています。例えば、東京大学に行って中央官庁や大企業に就職することは、もうゴールでも何でもなくなりました。高度成長の頃は、それはゴールで良く、いい人生だったと言えたと思います。今は全くそのように思えない人が多いのだらうと思います。組織に依存しては、良い人生は生きられないという世の中になっています。つまり、大きな組織というのは、資金などの資産をたくさん持っていたために安定していましたが、今やそのようなものは何の保証にもなりません。価値を生み出せなければ意味がありません。

教育で言うと、今は高校に行かず、高校卒業認定試験を受けて合格して東京大学に行ったり、あるいは違う大学に行ってから海外の大学に留学したりと、そういう人が結構たくさんいます。ですから、昔のような地域のエリートコース、どこか進学校があって、そこに行けば東京大学に行けるというようなものは、まだ一部ありますが、だんだん痩せ細ってきています。企業としても、やりがいのある仕事に夢中になって没頭できるような環境をいかに提供できるかにかかっていると思います。たくさんの人に同じ仕事をしてもらうというのは、もう成り立ちません。

最後になりますが、リーダーシップのモデルについて少しお話ししておきたいと思います。モデルになってもらうのは、ドワイト・アイゼンハワーという人です。ここから見ますと、大体知っているという年代の方が多いのではないかと思います。第2次世界大戦のヨーロッパ連合軍の総司令官を務めた人です。有名な『史上最大の作戦』も含めた、あの全体を指揮した人です。そして、第2次世界大戦後はアメリカの大統領になり、圧倒的な人気を誇って2期務められました。

その人の話ですが、アイゼンハワーは史上最大の決断と言われるような決断を幾つもしています。その当時、ヨーロッパはほとんどナチスドイツの軍隊が占領していたため、連合軍はイギリスに集結して、そこから上陸して反

攻していくわけです。東側からはソ連が反攻していきます。そのような状況ですから、どこから上陸しなければなりません。どこに上陸したか、結果は皆さまよくご存じのとおりで、ノルマンディーに上陸しますが、その上陸地点や、いつ上陸するか、全ての最終決断をしなければなりません。そして、上陸して拠点を築いたら、あとは最終的な勝利に向かってどのような経路で攻略していくかという決定責任者です。もう一つあったのは、東からはソ連が来ていますが、連合軍なので、どこかが一方的にベルリンを占領して、これで終わったというふうにならないようにしなければなりません。極めて微妙な問題があって、それも含めた全体の意思決定をする立場にありました。連合軍なので、現場の状況だけでは決められません。各国の首脳、アメリカのルーズベルト大統領、イギリスのチャーチル首相、フランス亡命政権のド・ゴール将軍、そしてソ連のスターリンといった人たちと調整をしなければなりません。自分だけでは決められないのです。この大役に、なぜアイゼンハワーが総司令官に選ばれたのでしょうか。

当時の状況で言うと、アイゼンハワーという人はほとんど無名でした。当時有名だったのは、アメリカ陸軍で言うと戦車の名前にもなっているパットン将軍や、イギリスのモンゴメリー将軍などで、非常に輝かしい戦歴を上げていました。しかし、このような人たちではなく、アイゼンハワーが選ばれました。アイゼンハワーはどちらかというとアメリカ陸軍の総務畑、教育関係を長く務めており、あまり輝かしい戦歴のようなものはないと言っていると思います。それでもアイゼンハワーが選ばれました。ヨーロッパ連合軍のリーダーには何が必要かということで、当然第一線で戦っている兵士、部下の信頼がなければ全く務まりません。ですから、アイゼンハワーも随分第一線に行つて、現場の兵士たちといろいろな話をするなどしています。そして連合軍なので、幹部たちを納得させられる力、コミュニケーション力がやはり必要です。そして先ほども言いました、各国首脳との信頼関係です。連合軍ですから、利害はみんな違います。一致することはありませんが、最終的には、あの男が言うのであれば仕方ないと、あいつに任せると思わせる力です。これが人間力です。これはやはり、なかなか普通の人にはなく、アイゼンハワーにはそれがあったということだと思います。

これは、実は野中郁次郎先生という、元一橋大学の経営学の先生が『史上最大の決断』という本に書かれています。この本は読んだら非常に面白く、途中でやめられません。ぜひ、読んでいない方はご覧になるといいと思います。その本の中で、アイゼンハワーのリーダーシップについて野中先生は、『人間の偉大さは思考や努力で、ある

領域において卓越するか、重大な責任を負った役割をうまく遂行して未来に足跡を残すかのどちらかで決まり、その偉大さの質はビジョン、誠実さ、理解力、表現力、人格によって担保される。彼の善意や偉大さはユートピア的観念論ではなく、実践の真ただ中で磨かれる人間のコモンセンスに根差していた』という、あまり分かりやすい文章だと私も思っていますが、ゆっくり味わっていただければ含蓄のある言葉だと思います。

地区指導者育成セミナーに出席されている皆さんは、リーダーとして成長することを期待されています。そして、そのとおり、ロータリーで得がたいチャンスを手にはしていると言っていると思います。ですから、どうか、高いゴールを目指していただきたい。松本さんがおっしゃっていましたが、これをしてくださいと言ったら「はい」「イエス」と言いましょう。自分を磨くためですから、それを嫌だと言つて楽をしても、何もいいことはありません。どうぞ「イエス」と言つて引き受けてください。失敗しても、先ほど言つたような寛容の精神にあふれた世界ですから、安心して失敗してください。そして、人間として成長していきます。その挑戦、そして挑戦することでぶつかる困難があなたを高める、あなたを成長させてくれます。ですから、どうぞ、いろいろなお役を言われたら、どんどん引き受けてください。何も知らなくていいのです。それから勉強したり、いろいろな人に聞いたりして、やればいいのです。菊池ガバナーは立派なガバナーですが、私なんかはガバナーになってからガバナーの勉強をして、ガバナーになっていったと自分では思っています。チャンスを生かすのはあなたです。一人一人のあなた方です。ぜひリーダーとして、自分の人生を豊かにするそのチャンスを手にしてください。

『Stay hungry, stay foolish』。皆さんもよくご存じかと思いますが、アップル創業者のスティーブ・ジョブズが2005年、スタンフォード大学の卒業式で記念講演をしたときの、最後の言葉です。相手は学生で若いので、どんどんやったらいいのはもちろんですが、がむしゃらに、とにかくやりなさいということです。そういう中からアップルに続くような新しい企業が、シリコンバレーからその後もどんどん出ていっているというのは、そういうことだと思います。何も遠慮することはありません。失敗を恐れることもありません。どうぞ自分の成長に賭けてください。それはあなたの人生を本当に豊かな、貴重なものにしてくれます。ということで、私の話を終わりたいと思います。

●謝 辞



地区ガバナー

菊池 捷男

木下様、お話、本当にありがとうございました。
今日、木下様から「ロータリーで学んだリーダーシップ」と題するお話を伺いましたが、正直、私は、「リーダーシップ」というものをテーマにした話、過去に聞いたことがないのです。今日、初めてそういう話を聞きまして、目からうろこが落ちたといえますか、今日のお話があまりにも内容が濃すぎまして、どの程度理解できたかわかりません。しかし、私の心の中には何かがすごく強烈なものが植え付けられました。

木下様は知性や教養が必要である、特に今の時代、知識に価値がある。知識基盤社会という言葉も使われました。DXのこの今の時代、特に知識が求められているというお話でした。リーダーには課題解決の能力が必要なのである、そこには強いミッションが必要なのだ、実践がミッションを育て、そこから成長をもたらすというお話もありました。

また、リーダーにならんとするものは広い視野が必要となる。一流のものになるには1万時間が必要だ、1日3時間を要するとして9年かかる。このお話を聞きまして、相当長期間に渡る継続した努力がいるのだと思うと同時に、9年間というのは我々にとってそう遠い先ではない、努力して一定程度のものが、確保できるのなら一生懸命努力したい。

そのような気持ちも沸き起こっています。そして、ロータリーの役割としては、安心して引き受けなさいと最後に言われました。頼まれたことは引き受けなさい、それが寛容の精神を養われるのだというお話もされました。

私が大変気に入った言葉ですが、リーダーシップの話は企業版の職業奉仕だと言われました。職業奉仕というのは一般的な概念ではないのです。国語辞典に出ている言葉でもありませんし、我々にとっては非常に大きな価値観ではありますが職業奉仕という言葉は一般には分かりにくいだろうと思います。職業奉仕といわずに職業倫理と言うのが早いかもしれません。しかし、職業倫理というのはあくまでも個人の倫理の高さと今まで思っていました。今日、企業版の職業奉仕という言葉が使われました。なるほどと思いました。今までモヤモヤしていたものが晴れました。人への投資という言葉もありました。

社員の成長が、利益の源泉だという言葉が使われました。会社の社長なら良いでしょうが、ガバナーとしては社員の成長というよりは、ロータリアン皆さんの成長をお手伝いするのでなければならぬ、と同時にロータリアン個々の人たちが成長することは結局のところ、日本を豊かにすると思えます、ということをお話を聞いて思いました。

実は私の頭の中は茫漠^{ぼうぼく}としています。要は、あまりにもすごい言葉、木下様の言葉が私にとっては一つ一つの言葉を噛みしめていきたいと思うほど、金言玉璽です。これを端緒にして、これから学びたいと思います。リーダーシップやそれ以外のロータリーの中核的価値観を一から学びたい。今日強く思いましたし、おそらく会場に来られている皆さんも同じ思いではないかと思っています。なんと素晴らしいRI会長代理をお迎えできたものかと感激しているところです。今日は本当にありがとうございました。



ガバナー補佐・会長・幹事会

●2019-20年度地区会計報告



2019-20 年度地区代表幹事

岸 篤彦

地区代表幹事を務めさせていただきました岸 篤彦でございます。

これより2019-20年度の地区会計報告を申し上げます。配布しております地区決算報告書をご覧ください。(報告書に沿って、地区資金収支の詳細が報告された)

なお、補足説明として、諮問委員会にてご了承いただきました新型コロナウイルス緊急支援のため、地区資金前年度繰越金より4,830,516円を取り崩しました。また、地区ロータリー財団事務所保持分より1,961,380円を取り崩しました。皆さまのご理解ご協力に厚く感謝申し上げます。

以上、2019-20年度地区会計報告とさせていただきます。

●2019-20年度地区監査報告



パストガバナー

庄司 尚史

監査委員会は、2020年10月7日、古瀬俱之直前ガバナー事務所におきまして、宮本享委員、小林和夫委員、そして私の3人で監査を実施いたしました。当日は、岸直前地区代表幹事からこと細かく説明を受けまして、通帳、その他の帳票類を確認し、監査報告書のとおり、正確に、適正に処理してあることを認めたところであります。監査報告とさせていただきます。ありがとうございました。

●2019-20年度地区決算報告の承認および採択



地区ガバナー

菊池 捷男

ただいま、直前地区代表幹事岸篤彦様よりご報告がございました、2019-20年度地区決算報告、パストガバナー庄司尚史様よりご報告がございました2019-20年度監査報告につきまして、皆さまのご承認を賜りたいと思います。

賛成の方は、拍手をお願いいたします。

(拍手)

賛成多数と認められましたので、承認されました。

ありがとうございました。本件は採択されました。

●登録委員会報告



登録委員会委員長

丸川眞太郎

登録委員会の報告をさせていただきます。
私は登録委員会委員長、岡山西ロータリークラブ所属の丸川でございます。よろしくお願いいたします。

登録委員会の構成は、岡山西ロータリークラブ財津唯行会員、中村秀彦会員と私の合計3名でございます。本日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして、登録委員会を開催いたしました。

ではここで、地区大会の登録者数をご報告申し上げます。会員登録者2,029名、ご家族登録者12名、クラブ事務局33名、特別参加者5名合計2,079名のご登録をいただきました。ご登録をいただきました全ての皆さまに感謝を申し上げ、ご登録者数のご報告とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

●信任状委員会報告



信任状委員会委員長

古瀬 倶之

信任状委員会委員長、出雲中央ロータリークラブ所属の古瀬でございます。ご指名によりまして、ご報告を申し上げます。

信任状委員会の構成は、第3グループガバナー補佐 森脇宏さん、第6グループガバナー補佐 別府洋吾さん、第9グループガバナー補佐 川本平山さんの4名です。

本日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして、信任状委員会を開催いたしました。

本委員会にて、投票権をお持ちのクラブの選挙人につきまして、その数および資格条件を調査、審議いたしました。当地区の地区大会が開催される月の直前の半期人頭分担金支払い期日におけるクラブ数は65クラブ、会員数は2,981名でございます。

これによりまして、国際ロータリー細則第15条第5節第1項に基づく選挙人の総数は、123名となります。

各クラブからご提出いただきました信任状を審査いたしました結果、いずれも適格でありました。そして、この信任状の全てを選挙管理委員会にお届けいたしました。

以上、信任状委員会のご報告といたします。
どうもありがとうございました。



● 選挙管理委員会



選挙管理委員会委員長

末長 範彦

選挙管理委員会委員長、岡山ロータリークラブ所属の末長でございます。ご指名によりまして、ご報告を申し上げます。

選挙管理委員会の構成は、第1グループガバナー補佐 道上正規さん、第4グループガバナー補佐 矢田信一さん、第7グループガバナー補佐 江口健一さん、第10グループガバナー補佐 槌田正則さんと私の5名です。

本日、14時から岡山国際ホテル松琴の間におきまして、選挙管理委員会を開催いたしました。本会にご出席の選挙人の123票につきまして、先ほど古瀬委員長からご報告がありましたとおり、それらの方々が適格との報告がございました。

2021-22年度地区ガバナーノミニー、すなわち2023-24年度の地区ガバナーの指名手続きに関わる指名委員を、地区指名委員会の委員とする件であります。この件につきまして、当地区は地区指名委員会制度を採用しております。

そこで国際ロータリー細則第12条第3節に基づき、2021-22年度地区ガバナーノミニー、すなわち2023-24年度の地区ガバナーの指名手続きは、地区指名委員会で進めることを提案いたします。ご審議、ご協議いただき、決議をお願いいたします。審議決議の内容は、明日の本会議において報告させていただきます。どうもありがとうございました。

● 決議報告



地区ガバナー

菊池 捷男

ただいま、信任状委員長古瀬俱之直前ガバナー、選挙管理委員長末長範彦パストガバナーよりご報告をいただきました。

この件につきまして、ご出席の皆さまに賛否をお諮りいたします。賛成の方は、拍手をお願いいたします。

(拍手) 賛成多数と認められましたので、提案どおり採択いたします。

ありがとうございました。

●大会決議委員会報告



大会決議委員会委員長
庄司 尚史

大会決議委員会委員長、境港ロータリークラブ所属の庄司でございます。

大会決議委員会の構成は、第2グループガバナー補佐 稲田泰博さん、第5グループガバナー補佐 右田明さん、第8グループガバナー補佐 廣野學さん、第11グループガバナー補佐 黒崎政彦さんの5名です。

本日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして大会決議委員会を開催いたしました。

2020-21年度地区大会決議案につきまして、ご説明申し上げます。

大会決議案の内容は、大会プログラム28-29ページをご覧ください。本来なら全文にわたり読むべきところでございますが、時間の関係もございますので、項目のみ読ませていただきます。

- 第1号 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク氏の
2020-21年度の目標に協力する件
- 第2号 国際ロータリー会長代理派遣に対する
ホルガー・クナーク会長へ感謝する件
- 第3号 国際ロータリー会長代理
木下光一氏ご夫妻に対する感謝の件
- 第4号 国際ロータリー第2690地区
古瀬俱之直前ガバナーに対する感謝の件
- 第5号 次年度地区大会開催の件
- 第6号 岡山市内の小学校に1校あたり
10冊の図書寄贈の件
- 第7号 2021年台湾・台北国際大会参加の件
- 第8号 ホストクラブならびにコ・ホストクラブに対し
感謝の意を表する件

8項目の大会決議案を明日の本会議で決議いただくこととなります。以上、大会決議委員会の報告といたします。ありがとうございました。

●閉会のことば



地区副代表幹事
桑原 一

長時間お疲れさまでございました。

これをもちまして2020-21年度国際ロータリー第2690地区ガバナー補佐・会長・幹事会を閉会いたします。ありがとうございました。



プログラム 第2日目 10月18日(日)

◆本会議

	会場	岡山国際ホテル	瑞光の間
	司会	地区幹事	野田 英樹
		アナウンサー	中島 有香
9:00	登録・受付		
10:00	オープニング演奏		
	地区ガバナー入場		
	国際ロータリー会長代理ご夫妻ご入場		
	開会・点鐘	地区ガバナー	菊池 捷男
	開会宣言	地区大会総括責任者	山下日出夫
	国歌「君が代」斉唱	ソングリーダー	上田 秀一
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱	ソングリーダー	上田 秀一
	開会あいさつ	地区大会実行委員長	松田 正己
	国際ロータリー会長代理ご夫妻ご紹介		
		地区ガバナー	菊池 捷男
	ご来賓紹介	地区ガバナー	菊池 捷男
	ガバナー補佐・特別招待者紹介		
	参加クラブ紹介		
	特別参加者紹介		
	物故会員紹介・黙祷		
	歓迎のことば	ホストクラブ会長	藤原 恵子
	来賓祝辞	岡山県副知事	菊池 善信
		岡山市長	大森 雅夫
	祝電披露		
	地区ガバナーあいさつ	地区ガバナー	菊池 捷男
	国際ロータリー会長代理ごあいさつ・国際ロータリー現況報告		
		国際ロータリー会長代理	木下 光一
12:00	休憩・昼食		
12:50	2019-20年度地区会計報告		
		直前地区会計長	廣原 俊平
	地区大会各種委員会		
	登録委員会報告	登録委員会委員長	丸川眞太郎
	信任状委員会報告	信任状委員会委員長	古瀬 俱之
	選挙管理委員会報告	選挙管理委員会委員長	末長 範彦
	大会決議委員会報告	大会決議委員会委員長	庄司 尚史
	地区大会決議案採択	地区ガバナー	菊池 捷男

記念事業発表	記念事業委員会委員長	加計 役
記念事業目録贈呈	地区ガバナー	菊池 捷男
お礼のことば	岡山市教育委員会教育長	菅野 和良
表彰		
感謝状贈呈	地区ガバナー	菊池 捷男
地区ガバナーエレクト紹介	地区ガバナー	菊池 捷男
地区ガバナーエレクトあいさつ		
	地区ガバナーエレクト	岩崎 陽一
地区ガバナーノミニ紹介	地区ガバナー	菊池 捷男
地区ガバナーノミニあいさつ		
	地区ガバナーノミニ	友末 誠夫
次期開催地ホストクラブ紹介		
	地区ガバナー	菊池 捷男
次期開催地ホストクラブあいさつ		
	次期地区大会実行委員長	田中 章夫
休憩		
15:00	講師紹介	講演委員会委員長 福嶋裕美子
	記念講演「『はやぶさ』思考法」で令和の日本を拓く」	
	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	
	シニアフェロー	川口淳一郎
謝辞		
休憩		
国際ロータリー会長代理講評		
	国際ロータリー会長代理	木下 光一
地区ガバナー謝辞	地区ガバナー	菊池 捷男
国際ロータリー会長代理へ感謝状ならびに記念品贈呈		
	地区ガバナー	菊池 捷男
閉会あいさつ	地区代表幹事	末吉 誠一
閉会・点鐘	地区ガバナー	菊池 捷男
国際ロータリー会長代理ご夫妻ご退場		
17:00	お知らせ	

●開会宣言



地区大会総括責任者
山下日出夫

おはようございます。大変な新型コロナウイルス禍のもとにたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。晴れの国おかやまにふさわしい快晴が、昼以降はやってくると思いますので、楽しみにしておいてください。それでは2020-21年度国際ロータリー第2690地区 地区大会を開会いたします。よろしくお願いします。





●地区大会実行委員長 あいさつ



地区大会実行委員長
松田 正己

2020-21年度国際ロータリー第2690地区地区大会を地区の各クラブの皆さま方の深いご理解とご協力の下、予定通りに開催できますことを衷心より厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの脅威が収まらない中、感染防止を最優先にウィズコロナ時代のモデル大会となるよう万全を期して準備を進めてまいりました。国、岡山県、岡山市の定めるガイドラインを徹底、本会場・サブ会場での中継に加え、会場にお越しいただけない方のためにインターネットによるオンライン生中継などを取り入れております。

そうした状況にも関わらず、国際ロータリー会長代理として木下光一様ご夫妻におかれましては、遠路大分からご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

また、岡山県副知事・菊池善信様、岡山市長・大森雅夫様をはじめとするご来賓の皆さま方、さらに本年度は地区内のみのご案内となりましたが、多数のバスターガバナー、ロータリアン各位とご家族の皆さまにもご参加いただきました。心から感謝申し上げますとともに歓迎申し上げます。

本年度のホルガー・クナーク国際ロータリー会長のテーマは「Rotary Opens Opportunities (ロータリーは機会の扉を開く)」であります。これを受けて第2690地区の菊池捷男地区ガバナーは「こころの扉を開こう」をスローガンに掲げられました。

今、世界は未曾有のコロナ危機の渦中にあります。国内外で社会、経済活動が制限され、ウィズコロナ時代を生き抜く行動変容、持続可能なニューノーマル（新常態）への転換が求められています。「世界を変える行動人」としてのロータリーのネットワークと活動に期待が寄せられているのであります。

そのためのさまざまな機会の扉を開くとともに、コロナ禍によってソーシャルディスタンス、テレワーク等々、人との関わりが希薄になりつつある社会にあって、常に心の扉を開いておきたい。そんなメッセージを発信する大会になれば、と思っております。

最後となりましたが、本大会の準備運営にご尽力いただいた、ホストクラブの岡山西ロータリークラブ、コ・ホストクラブの高梁ロータリークラブと岡山城ロータリークラブ並びに岡山オールロータリアンテニスクラブの皆さまにあらためて感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

●ホストクラブ会長 歓迎のこたば



岡山西ロータリークラブ 会長
藤原 恵子

皆さま、「晴れの国おかやま」へようこそお越しくださいました。

岡山は「フルーツ王国」「桃太郎の故郷」としても知られており、10月は大変気候の良いシーズンでもあります。国際ロータリー第2690地区地区大会の開催にあたり、ホストクラブを代表して心より歓迎いたします。

本日は、国際ロータリー会長代理として木下光一様ご夫妻ご臨席の下、岡山県副知事菊池善信様、岡山市長大森雅夫様をはじめとするご来賓の方々、地区内バスターガバナーの皆さま、多くのロータリアンとご家族の皆さまにご参加いただきました。開催にあたっては、私どもホストクラブ岡山西ロータリークラブと共に運営に当たっていただいた高梁ロータリークラブおよび岡山城ロータリークラブの皆さまに多大なるご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、今回の地区大会は新型コロナウイルス感染症が未だ終息できない中での開催ということで、従前に比べて規模やイベントを大幅に縮小せざるを得ませんでした。ホストクラブとしてもコロナ感染症対策を最優先に運営に当たることとしました。どうかガイドラインに従って、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用の励行、三密回避の徹底を行うことによって、「ロータリーからは感染者を出さない」という強い意識の共有と行動をよろしくお願いいたします。今回の地区大会が、ロータリーが行う奉仕、社会貢献活動の一環として、コロナ感染症に対して私たちはどのような貢献ができるのかを考える良い機会になれば幸いです。

岡山市とその周辺には多くの観光名所があります。岡山市内の岡山城と後楽園、倉敷の美観地区と大原美術館、桃太郎伝説ゆかりの吉備津神社、少し足を伸ばせば、高梁の備中松山城、日本のエーゲ海牛窓、風光明媚な瀬戸内海を一望する瀬戸大橋と鷺羽山など、自然と歴史を満喫できるスポットには事欠きません。

ご参加いただいた皆さまと共にコロナ感染症の一日も早い終息を祈念するとともに、今回の地区大会の機会が皆さまにとって良い思い出となりますことを切に願って歓迎のこたばとさせていただきます。

●岡山県副知事 祝辞



岡山県副知事
菊池 善信

2020-21年度国際ロータリー第2690地区大会のご盛会をお喜び申し上げますとともに、鳥取県、島根県からお越しいただいた皆さまを心から歓迎いたします。

皆さま方におかれましては、地域貢献活動に取り組む個人・団体の顕彰や青少年健全育成など、さまざまな活動に取り組まれています。また、新型コロナウイルスが社会経済に多大な影響を及ぼす中においても工夫を凝らして活動し、本県へも感染防止用の資材を寄贈いただくなど、社会奉仕に励まれていることに、深く敬意と感謝の意を表します。

現在、本県では、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めるとともに、検査体制・医療体制の充実と県内経済の再生に全力で取り組んでいるところです。同時に、県政推進の羅針盤である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」に基づき、「教育県岡山の復活」や「産業の振興」をはじめ、喫緊の課題である人口減少問題への対応など、これまで進めてきた各種施策のさらなる加速化を図り、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現に向け、積極的な取り組みを進めています。

このような中、皆さまが「ロータリーは機会の扉を開く」「こころの扉を開こう」を合言葉に、地域社会を変えようと粘り強く行動、実践されていることは、誠に意義深いことであり、本大会を通じて絆をさらに深められ、地域社会の発展に一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

本県には、日本三名園の一つ岡山後楽園や白壁の町・倉敷美観地区、多島美を誇る瀬戸内海など、多彩な見どころがあります。加えて、フルーツや新鮮な魚介類、ご当地グルメなど、おいしい食べ物も豊富です。感染防止に留意しながら、この機会に岡山の豊かな自然や歴史・文化、味覚をご堪能ください。県内にお住まいの方には、岡山の魅力を再発見する機会にもしていただきたいと存じます。

終わりに、国際ロータリー第2690地区の各クラブのご発展と、会員の皆さま方のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

●岡山市長 祝辞



岡山市長
大森 雅夫

「国際ロータリー第2690地区大会」が開催されますことをお喜び申し上げますとともに、岡山にお越しいただいた皆さまを心から歓迎いたします。

皆さま方におかれましては、奉仕の精神に基づく国際交流や青少年育成、環境保全活動などの幅広い社会貢献活動を通じて、より良い地域社会づくりにご尽力をいただいているところであり、皆さま方の熱心な取組に対し、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第です。

近年、個人の価値観が多様化し、社会が急速に変化する中であって、さまざまな社会課題を解決するためには、住民や団体、事業者、学校、行政などの多様な主体がそれぞれの強みをいかし、主体的に協働しながら、課題解決に取り組むことが重要です。

岡山市では、すべての方々が生きがいを持って社会参加し、安心して住み続けられる持続可能な地域社会の実現に向けて、市民協働のまちづくりを進めているところであり、とりわけ、昨年開催されたG20岡山保健大臣会合では、官民挙げて各国の出席者の皆様をおもてなしするとともに、岡山の目指すべき保健医療の姿のプレゼンテーションや先進的な健康づくりの取組など、岡山の持つ多彩な魅力を発信することができました。

一方、今年に入り新型コロナウイルス感染症により、市民生活や経済活動は多大な影響を受けており、岡山市においても、感染拡大の防止に細心の注意を払いながら、社会・経済活動を継続していくためさまざまな手段を講じているところです。皆さま方におかれましては、それぞれの地域においてさまざまな支援活動を行っていただいておりますことを大変心強く思っています。

こうした中、国際ロータリー第2690地区の皆さまがここ岡山に一堂に会し、互いの絆を深め、学び合う場を持たれますことは誠に意義深いことと存じます。皆さま方には、今後とも、協働のまちづくりのパートナーとして、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本大会のご盛会と国際ロータリー第2690地区のさらなるご発展、会員の皆さま方のますますのご健勝とご活躍を、心から祈念申し上げます。



●地区ガバナー あいさつ



地区ガバナー

菊池 捷男

皆さま、改めましてこんにちは。本日は、国際ロータリー会長代理木下光一様、令夫人貴鶴様のご臨席の下、地区大会を開催いたします。

私たちロータリアンは、お互いどのような関係にある者なのでしょうか。ロータリーの偉大な先人の語るところでは、私たちは、知り合い程度の関係ではなく、親しいもの同士の友情でもなく、志を同じくする者同士の仲間意識 (fellowship)、そういう結びつきを持った者同士であります。

今日こうして集まったわけですが、これは、ロータリーのビジョン声明の冒頭のことばになっている、togetherということを実現させたものと考えております。

本年度の国際ロータリーの会長であるホルガー・クナークさんは、ロータリーを楽しむ一番の方法は、togetherだと言われました。では、ロータリアンが一同に集まるとどのようなことが起こるでしょうか。私は、奇蹟が起こると思っています。

すなわち、ロータリアンが集まり、胸襟を開いて語り合い、肝胆相照らす関係ができるとき、1つ、私たちは、多様性の世界に生きていることを発見することでしょう。2つ、自分とは異なる意見も、傾聴すべきであると思うようになるでしょう。3つ、科学とエビデンスを基に、考える者になるでしょう。4つ、その反対に非科学的な考えから生まれる、バイアス (偏見) からは、解放されるものになるでしょう。5つ、視点を高く、視野広く、世の中を見る目も養われることになるでしょう。6つ、奉仕がより大きな喜びになることでしょう。7つ、高潔性やリーダーシップを身に付けることにもなるでしょう。togetherがこのような結果を起こすのであらうと思います。

ロータリーは、今私が言ったような、多くの徳目を育んでくれる、機会の扉を開いてくれているのです。ことばを代えて言えば、こころの扉を開いてくれているのです。

今日は、年に一度の地区大会の日です。最も大きなtogetherの日です。本日は、ロータリアン仲間の皆さまと共に、人生を、ロータリーを、大いに楽しむ一日にしたいと思います。このコロナ禍の中、コロナに負けるわけにはいかないという思いを持って、地区大会を開催した次第です、どうか今日は一日、皆さま、おおいにロータリーを、人生を、エンジョイしてくださいよう、お願いして、私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

●国際ロータリー現況報告



国際ロータリー会長代理

木下 光一

皆さまこんにちは。さすがに晴れの国ですね岡山は。昨日から空模様が心配でありましたが、今日は見事にこういう良い天気になりまして、地区大会をみんなで祝えるというのは、本当に素晴らしいことだと思います。

こうやって多くの会員の皆さまの前で、RI会長代理としてスピーチをさせていただきますことは、本当に名誉なことだと心から思っております。こういう機会を作っていただきました関係者の方々に、心より御礼申し上げたいと思います。

私の紹介を申し上げるべきところではありますが、大会のプログラムに掲載していただいておりますので、あまり重複するようなことは申し上げないで、本題に入りたいと思います。私の家内の貴鶴がスザンヌ夫人の名代として出席をさせていただいております。あわせてどうぞよろしく願いいたします。

RI会長代理として派遣されますときに、こういうことを言いなさい、こういうようなことをしなさいというマニュアルのようなものがありまして、それに書いていることを言わなければなりませんので、そのことを先に申し上げたいと思います。

まずRI会長とRIテーマのご紹介をしなければなりません。今年度のRI会長ホルガー・クナークさん、発音がしづらいですがドイツの方です。そしてスザンヌ夫人であります。今年度のRIテーマはご承知のように「ロータリーは機会の扉を開く」でございます。

マークも非常に印象的ですね。ロータリーのバッジの周辺にあるゴールドとロータリーのブルー、ローターアクトの赤をドアの形にしてマークも非常に印象的ですね。なかなか素敵でマークだと思います。

クナークRI会長の略歴を簡単にご紹介いたします。

所属するロータリークラブ、これがまた難しいですね、ヘルツォークトゥム・ラウエンブルグ・メルンロータリークラブというようにカタカナの振り仮名を読みました。ドイツのハンブルグから一時間くらい行った場所だそうです。

略歴は1992年にロータリーに入会をしておられます。私も大体1992年だったのじゃないかと思います。その他RIの要職、財務長、理事、モデレーター、モデレーターというのは皆さん耳にされることのないかと思いますが、国際協議会の研修チームのトップでございます。いわゆる、RIの研修リーダーをまとめて国際協議会の研修のプログラムをつくるトップの存在です。たまたまですが、私が1年目の研修リーダーの時のモデレーターが、クナークさんでありました。その時思ったのが、あの特徴的な眼鏡ですね。小さな玉が前に出ているあんな眼鏡は他で見たことないなあと思っていました。とても誠実な明るい方だと思っておりましたら、今度はRI会長になられたということで、私たちは本当にいい会長をいただいているなと思っています。

その間、RIの各種委員会の委員や委員長、規定審議会代表議員、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、地区ガバナー等をなさいまして、直近では2019年ハンブルグ国際大会です。ホスト組織委員会の共同委員長を歴任されたということでございます。クナークさんのメッセージ、これはMy Rotaryの中にあるので、それを取ってきております。私もこれを作りながら分かりにくい翻訳だなと思いながら、会長の原文は素晴らしいのでしょうけど、役割ですので申し上げたいと思います。

奉仕の行いは、その大小に関わらず助けを必要とする人たち、そして私たち自身のために機会を生み出すものであります。ロータリーはリーダーシップの機会、奉仕のアイデアを実行に移すために世界を旅する機会、そして生涯続く友情の絆を築く機会を与えてくれます。

まさにそうであります。今のコロナによってなかなか自由に集まれないとかの機会を捉えて、ロータリーを成長させ、より強く適応力を高め、中核的価値観に寄り添ったロータリーとなるチャンスだということですね。コロナがあるからといって委縮してしまうのではなくて、これをチャンスだと捉えていろんなことをやりましょうということです。

ロータリーの行動計画は、クラブの進化を導く羅針盤であると指摘したクナーク会長、全クラブが少なくとも年1回戦略計画会議を開くことを勧めました。5年後にどのようなクラブになりたいかを自問し、クラブが会員により



多くの価値をもたらす方法を考えるべきであるといわれています。クラブの戦略会議ということが言われ始めて何年か経ちますよね？皆さま方、ご自分のクラブに戦略計画があるといわれるクラブがどれ位ありますか？全くないということはないと思いますが、遠慮されずに手を挙げていただいていいのですけど。あまり浸透していないことは事実ですが、戦略計画を立てようということになるとなかなかどうしたらいいかと考えることがたくさんあると思いますが、そういう形式の話ではなくて、どんなクラブになりたいかということを皆で話し合っ共有しておくということです。そういうクラブフォーラムのようなことを、年一回おやりになるということが、まず、最初だろうと思います。その構想に沿っていろんなことをやっていく、会員増強などにしてもそれに沿ってやっていく、それがクナークさんの言われることであろうかと思ひます。

その他にロータリーのリーダー職に、もっと多くの女性就くこと、クラブの結成と運営にローターアクターが不可欠な役割を果たすこと、ロータリー会員であることの意味を考え直すこと、若い人たちに新クラブの設計者になってもらうこと、若い人たちのためにユニークな新クラブをつくることは解決策の一部にしかすぎません。もっと自分たちに一番合うロータリーの体験は、どのようなものかをローターアクター自身に決めてもらおうではありませんか。より若い人たちが活動しやすいクラブにしていこうというお考えです。

ロータリー会員が、変化を受け入れることの必要性を強調した上で、時間は私たちのためにスローダウンしてくれません。自分たちのクラブには、事情があつてなかなか変化できないのだといっている、環境は待ってくれないということです。そうすると置いていかれてしまう。

どうか今の時代の流れ、環境の変化を能動的に捉えて主体的に行動してもらいたいということです。RIが言うからこうしているというわけじゃないと、自分たちはこれが必要だから自分たちで考えて決めてやっています。そのようにしてくれということです。私たちは急速な変化に負けけません。この機会を捉えてロータリーを成長させ、より強く適応力を高め、中核的価値観に寄り添ったロータリーになるのだ、こういうことをお話しになっております。

さて、国際ロータリーは戦略計画を改定しております。2019年に改定をしております。国際ロータリーの戦略計画、言葉はよく皆さま方もよくお聞きになるし、いろんな文献も読んだりしておられると思いますが、全体の組み立てはこういうふうになっていると思います。

まず、「世界を変える行動人」というスローガンのようなものがあつて、そのもっと具体化したものがビジョン声明、そして中核的価値観があつて、新しく変わったロータリーの戦略的優先事項と目的、優先事項が4つで、それ

ぞれにいくつか目的があつて、全部で14の目的になっています。このように改定をされたわけです。改定をしたということとは、その前3年間の戦略計画であまり良い成果が上がらなかったということの現れでもあります。

いずれにしても時代の変化、環境の変化に合わせて戦略は変えていかなければいけませんので、ロータリーもそれをしたということです。それに触れますと、最初のスローガンである世界を変える行動人です。ロータリーのことをほんの短い言葉、一言で言うと世界を変える行動人です。左側はポリオの活動をしてられる写真だし、右側は運河のような川の清掃を船に乗ってしている写真ですけれど、5、6年前、もうちょっと前かな、ロータリーが使う写真が変わったのです。その前は一人の人が何かしゃべっている写真とか、あるいは逆に集合写真のようなもの、そんなものがほとんどだったのですけど、結局それは何も伝えていない訳です。行動しているような写真、活動しているような写真に切り替えています。これもその一つです。

それからロータリーのビジョン声明です。私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合つて行動する世界を目指しています。ロータリーは何をしているのですかと言われたら、こういうふうに答えるということです。自分自身の中でということがとても大事なことです。そして中核的価値観、5つの項目があるわけですが、奉仕、これは奉仕を通していろんなことを学んでいるのです。何よりもたくさんの気づきをその中からもらっています。非常に重要なことであります。そして親睦です。仲間との信頼関係が多くのことを可能にして、私たちの成長を助けてくれます。

だからとても親睦は大事です。そして多様性。ジェンダーや年齢、職業、あるいは国籍、そういうものの多様な人の集まり、それが革新を生むということです。そういう意味では日本は比較的単一の民族に近い社会でありますから、なかなかこういう考え方になじみにくいのだろろうと思います。今でも体制としてはなじみにくいと言えるのかもしれませんが、それが革新を生む力が弱いというのは確かなことではないかと思ひます。居心地が良いというのはとても大事なことでありますが、その中にどっぷりと浸かっていたら結局生き残ってはいけません。多様性を積極的に受け入れるというよりも、作り出そうと行動をすることが大事なのではないかと思ひます。

それから高潔性。代表的なのはいわゆる、職業倫理の話であります。しかし、職業倫理できちんとするのは当たり前です。ずいぶん前は当たり前ではなかったので強調してきたのですが、今の日本でそのことだけを言っていて、それが高潔性を満たしていると言ったら、とんでもないです。社会が私たちに求めている、要請していること

があるわけですから、それに応えていくことです。それで初めて高潔性を満たしているということになるのだらうと思います。

社会の要請責任に応える、それは何かという我々の職業・企業を発展させて雇用を増やして、地域社会に貢献するという事です。その前提としての職業倫理は当然のことです。そこがずれていると話になりませんから。

その上でちゃんと職業、企業を充実発展させ、雇用を増やして地域社会に経済的果実をもたらすということです。

その責任を負っているということです。リーダーシップ、ともすると不可能に思われることを可能にする人間的能力、とても魅力的なことです。それをロータリーであらゆる機会ですんで身に着けているということです。だからこの瞬間も身に着けているはずで、とてもありがたいことです。

戦略的優先事項4項目の優先事項があるのですが、1番目は、より大きなインパクトをもたらす、もっと効果的な活動をしろということです。一生懸命やっているのはいいのだけれど、ポリオの根絶というのはものすごく大きなインパクトがありました。最近、アフリカがポリオフリーになりましたね。ちょっと考えたら信じられないと思うですよ。あのアフリカでポリオが根絶されたのです。その前はインド。インドに行かれた方は分かると思いますが、大変な国だというイメージをおそらく持っていたらっしゃると思います。あの国でポリオは根絶されたのです。こんなことが起こるのです。で、あと2カ国です。これをやり遂げるのにまだまだ大きな困難があると思いますけど、ロータリーは必ずやれると思うのです。ロータリーでないとどんな団体もこれはできません。どんな国だってできないです。

これができるのはロータリーだけです。ロータリーが1985年にやろうとって、世界の子供たちに約束したようなものです。これをロータリーが中心になっていろんな機関、国の協力を得ていま進めてきている訳です。これをやり遂げたらロータリーの存在感はすごいことになります。

いろんな広報、公共イメージ、これ以上のものはないと思います。別に公共イメージを上げるためにやれといっているわけではありませんが、我々にとって誇りですよ。ぜひやり遂げたいと思います。

そのほかロータリーが提供するいろんな体験を、より大きな効果を上げられるものにするということ、より大きな印象を残すようなものにする、要は成果を上げなければだめだということです。いくら一生懸命やっているといっても、それでは素人の話で、やはりリーダーとして、プロフェッショナルとしてやるのであれば成果を上げなければだめだということです。

2番目は参加者の基盤を広げる。もっと多くの会員を集め、会員の参加者ももっとたくさんの人に参加をしてもら

う。そして多様な人たちと手を組んで、多様な人たちを構成人とする会でやる。

3番目は参加者の積極的な関わりを促す。もっといろいろな奉仕活動に参加する率を上げるべきではないか。我々も自分の胸に当ててみると、自分のクラブで奉仕活動をやると、どれだけの人が参加するのだらうとちょっと考えてほしいのです。いろいろクラブによって違いはあると思いますが、十分ではないと思うのです。参加者の希望に沿うやり方があるのではないのでしょうか。

たとえば、若い会員の方は、ロータリーに入ることによって、自分の職業を発展させたいと、少しでも役に立つと思って入る方も実は多いのだと思います。だけど入ったけどなかなかそんなふうにならないと思う人も随分いらっしゃると思うのです。

自分の職業の発展を願って、ロータリーの門をたたき若い人、そういう会員のために、経営者としてのスキルを学ぶ場を提供したり、人のネットワークを形成する機会をクラブはもっと積極的に提供すべきではないかと思います。

4番目は適応力を高める。自分を革新していく力を各クラブがどんどん力をつけていく。こんなことをやったらリスクはいろいろあるよねというようなリスクの責任を引き受けて、なるべくそのようなことにならないようにしてやる。今回の地区大会もそうです、地区大会やればひょっとしたらコロナに関係することが起こるかもしれないが、できるだけそういうことが起こらないように知恵をあわせて工夫してやっていく。素晴らしいことです。

そしてガバナンスは合理化していきましょう。

世界の会員の傾向、これも絶対言えと言われているのでいいです。ここ20年ほぼ世界の会員は120万人。その間何回か戦略計画が作られました。でも変わってないです。これが現実です。内訳を言えば先進国が減って、新興国が増えて合わせたら120万人。

だから会員の増強についてはうまくいってないということです。だから新しいことをやろうということに今なっています。世界で2020年1月1日現在、35,945クラブ、前年の7月1日半年で55クラブ増えています。会員数は1,208,000人、半年間で19,000人くらい増えています。会員のジェンダーは23%が女性だと、40歳未満の会員は6%です。

ローターアクトは世界で10,260、クラブは半年で8クラブ増えている。ローターアクトは世界全体で189,000人、7月半年で16,000人増えている。増えたうちの半分は女性だということ。当第2690地区これをみても大変素晴らしい地区だと感じています。7月1日現在会員が2,981人の会員、2016年からみても66人しか減っていないという非常に優秀な地区だと思います。65クラブこれも1つしか減っていない。立派な成績だと思います。会員の男女比は女性が6.5%、世界が先ほど申し上げました23%ですから、これはもうちょっと改善する余地があります。



一方、会員の維持率は非常に立派ですね、新しい会員の維持率は96%と、世界が79%ですから当地区の方がはるかに優秀だということです。既存会員の維持率も同じであります、92%の維持率で世界の77%とかなり上回っています。ただ、40歳未満の会員は1.5%、世界も決して高くはないですが6%ですので、若い会員が増えていくことを具体的にやらなければ増えないでしょう。財団の寄付はおひとり234ドルですから大変ご立派でございます。素晴らしい成果を上げておられると思います。

ロータリーにおいて変えるべきところと変えてはならないところがあると思います。変えるべきところは奉仕活動、実践分野です。これはもういろいろ状況環境に合わせて変わっていく。これは当然のことです、重点分野が6つありました。それに第7の重点分野として環境保全が加わって、財団の補助金等でも来年の7月から適用されます。環境の保全が加わったのです。とてもいいことだと思います。世界中で異常気象があつて、ロータリアンの多くがロータリーこれやらんのかなと思っていたらと思います。まさにそれに応えていけるものであります。それとロータリーが環境保全をやることについては、とても素晴らしいことだと思います。環境に関することって、非常に専門的知識が必要なのです。専門的にやらなければと効果が上がらない。ロータリーは多くの職業を持った会員がおられますので、ノウハウや知識を使ってやれば、より効果的にできるだろうと期待しています。

それから変えるべきところは管理と運営ですね。柔軟性も含めてやはり昔のやり方でこうでないといかんとやっているとい化石になりますよ。これが、時代の変化だと思います。昔はそれでよかった。今の時代ではそれではやはり生き残れないとは言いませんが、非常に少数の自己満足の集団になってしまうのだらうと思います。やはりこれは変えるべきだろうと思います。

一方、変えてはならないところはロータリーの哲学。2つのモットーに代表されるロータリーの哲学です。「超我の奉仕」と「最も奉仕する者、最も報いられる」という哲学とロータリーの理念と精神であります。ロータリーの基本理念は、モットーも含めてロータリーの目的、四つのテスト、五大奉仕部門こういったことに跨って、この全体が基本理念だと思いますが、これは共通の目的や指針として、長い年月を掛けて、形作られたものです。世界中のロータリアンがこれらの理念を大切にしています。これらは皆さんもよくご承知のことですから、これ以上は触れません。ロータリーの目的も同じことです。

なかでも職業に関すること、あるいは奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて…このへんは本当に大事な考え方だと思いますので、よく自分のものとしていただきたいと思います。それから四つのテスト、これもいまさら申し上げることもありませんが、とても大

事なことです。

そして奉仕部門、現在5つになりますが、青少年奉仕にあるローターアクトということは、ローターアクト自身が会員区分になりましたから、この区分からは除かれるのではないのでしょうか。

以上で、皆さまに伝えなさいと言われていることを一応お伝えしました。説明と解釈はこれで終わりです。何が言いたいのかというと、こういう考え方を知った上で、自分で考えることが最も大切です。あれらが言っているからこういうふうにやりましょうとか、そんなことではないということです。クラブは地域をベースに地域を背景として成立しているわけです。地域に貢献する責任があるわけです。

そうであれば、自分で考えなければ、そんなことはできないですね。自分で考えて、自分が抱えている課題に即して考えていくことです。地域の課題もあるでしょう、ご自分の職業に関する課題もあると思います。そしてクラブでは「Exchange ideas, Join leaders, Take action」これは何年か前まである程度の期間、国際協議会の入り口に掲げられていたスローガンです。今もっている考えをそこで出せ、他の人と交換して、そこでもっとブラッシュアップしなさい、そういう場ですよ。そこへ来て考えるのはNOです。そして、課題を解決しようとしているリーダーの仲間に入りなさい。あなたもリーダーですよ。そして行動しましょう。社会の課題を解決する、このために我々はロータリーで活動してきています。

その結果として自分が成長する。自分が成長するためにロータリーをやっているわけではないです。それは結果の話です。そこを間違えないように、社会の課題を解決するために一生懸命やるのです。その結果として、一番成長するのは自分なのです。苦労は多いし、しかし、喜ばれるたくさんの方の気づきがあります。そして、その中に自分の職業、ビジネスのブラッシュアップのヒントが無限にあるのです。それをどんどん取り入れてやっていく。だから、ロータリーは素晴らしいのです。その結果、自分の成長、職業の成長、地域社会の充実につながるのです。

じゃあ、私たち、あなたはどうかやって社会に奉仕貢献をするのでしょうか。まずは、職業を通じて社会に貢献します。さらに、自分の時間やお金や体を使って、社会課題の解決にあたります。職業を通じて社会に奉仕するとは、どういうことなのでしょう。職業の職能で解決します。ドクターが患者さんを治療するというのは分かりやすいです。それから企業や組織として雇用を生み出して、経済的果実を生み出して、社会に還元するということです。これをもっとやれと私は言いたいのです。十分に行われていれば、今の地域経済の停滞とか人口減少なんてあるはずがない。地域の中心的な企業や専門職業の皆さんで構成されているロータリーが、ちゃんと責任を果たしていれば、こんなことが起こるはずがない。とくに地方では新たな

事業者が生まれない。既存の企業はなかなか革新ができなくて衰退していく。だから企業数も減る。経済活動が不活発になる。これをなんとかするにはまず新しい事業者が生まれるようにしなければいけない。これをなくして革新は起こらないです。ロータリーが新しい若い会員を入れるとか新しいクラブを作れというのと同じことです。

今、私が思っているのは子ども、とくにひとり親世帯の子どもに自分の可能性を気付いてもらえるようなチャンスを与えること。いわゆる、ひとり親世帯の所得で差をつけてやるのは行政ではやりにくい。その辺を上手にできるのはロータリーだと思います。

ひとり親世帯だと経済的に苦しいので、ゲームの機械、ITの機械もあまり触れない子どもがいっぱいいるのです。そういう子どもが学校に行ったらどうなりますか。全く話の輪に入れないのでだんだん差別、いじめにつながるようになっていっています。なんとか食い止めていきたい。将来に希望が持てないような子どもはなくしたい。

それはロータリーでできるのではない。地域社会での奉仕ですが最大のものは、自らの職業企業を成長させて雇用を増やす。利益もちゃんと出す。それを地域社会に還元する。それは職業奉仕そのものです。もう一つは国や制度に頼らないで自分の力で自分の事業を成長させるというマインドをちゃんと確立することです。

ロータリアンがそのモデルになることによって、こういうマインドを地域に広げていくことができると思います。多様な人たちが力をあわせて、困難なことを実現していく体験の提供。今やっている青少年交換、留学生支援もそうです。こうしたことを通じて持続可能な地域を作り上げることです。ロータリアンが重要な役割も担っていることは事実です。これができるようになるために、親睦やクラブ奉仕があるということです。社会をよくするためにロータリーが存在しているのです。そして、ロータリーの理念や精神を学んでそれが奉仕活動を生み出す柱、ミッションになっていくのです。クラブ全体でやる奉仕活動で経験を積んで、家庭や社会で実践していくのです。それをロータリーである程度長くやっていると、いつのまにか誰もできないことが、自然にできるようになっているのです。これがロータリーマジックです。だからクラブが一番大切なのです。

職業を革新しようとする創意工夫しようします。でも新しくやったことのほとんどはうまくいけません。当たり前ですね、新しくするのですから。そんな時に一番相談できるのがクラブの仲間であるはずなのです、そういう文化ができていれば。そういうクラブであれば、どんどん会員が増えます。そして一人ではできない奉仕活動をいろいろ始められます。地域の子どもたちは地域の宝なのです。その子どもたちが生き生きと希望をもって生きられるようにしていきましょう。そのためには、アイデアを

交換して支え合う。これができるのはクラブの仲間です。奉仕の心で結ばれているからです。

日本社会は改革が必要なのは、皆さま感じておられると思います。コロナでも課題が浮き彫りになりました。もうDXは待ったなしです。社会課題の多くはロータリーの課題と共通です。高齢化、人口減少、低成長です。これを変えていく知恵と勇気を持ったリーダーが、各地に必要です。テレワークがどんどん進んでいきます。コロナが収束しても元には戻らない。中には地方に住んで東京の会社で働いている人が結構出てきています。そういう人は東京の本社で働いている時にはロータリーに入らないです。いままで大企業の社員に、ほとんどロータリーを広げることができなかったのです。今がチャンスです。

でも、それができるようになるにはクラブの側も柔軟性とか考えていかないと。リーダーを生み出せるのは本来ロータリーです。皆さん、もともと事業所のリーダーです。自分の事業、職業と地域のブラッシュアップをしていくリーダーなのです。その期待に応えてこそ、ロータリーではないか。ロータリーにNOはないです。これは人を育てるために言われてきたことです。積極的に役を引き受けていただきたい。人生は今、長丁場です。大体90歳くらいまで皆さん行けるはず。野球で言えば9回までであるのです。

でも現役で仕事するのが昔の意識だと7回くらいまででしょうか、まだそのあと8回も9回もあるのです。その長い人生をどれだけ豊かに生きるかという、やはり地域の中で、地域と結ばれて、地域に貢献しながら生きていくということが、いかに大きいかと良くお分かりだと思います。ロータリーにとってもチャンスだと思います。人間最後は必ず来ますが、それまでずっと成長し続けられる、それを提供しているのはロータリーです。最後までいろんなことで人のお役に立つことができる。だからきっと素晴らしい人生を築くことになるはずなのです。

最後にこれも言えと言われています。国際大会です。来年6月12日から16日台北です。ぜひ多くの皆さんに行っていただきたいと思います。台湾は日本にとって本当に大切な隣国です。仲間です。東日本大震災の時、台湾が圧倒的な金額の義援金を日本に寄せてくれたのです。

私たちはそういう存在として台湾を認識しないといけません。その台湾に来年ぜひ行きましょう。国際大会に行くということはロータリーのシャワーを全身に浴びることです。大会会場に行ったらロータリーの大きさとエネルギーを実感します。ロータリーのさまざまな活動を理解します。世界は大きくて多様でエネルギーに満ちています。

それを自分の生き方とビジネスに新しい光として当てていただきたい。そのために国際大会に行っていただきたい。ぜひ、台北で皆さまと再会したいと思います。ご清聴ありがとうございました。



本会議

●地区会計報告



2019-20 年度地区会計長

廣原 俊平

2019-20年度地区会計長を務めさせていただきました廣原俊平でございます。

2019-20年度地区会計報告を申し上げます。

まず、地区資金についてご報告いたします。地区資金の収入は合計41,790,253円となっております。

一方、支出については、運営の経費削減、効率化に努め、地区支出合計は41,405,068円となり、その結果、385,185円を次年度へ繰り越しをさせていただきます。

続きまして、地区特別会計についてご報告いたします。地区特別会計の収入合計は40,892,583円、支出合計は33,007,118円、次年度繰越金7,885,465円（地区ロータリー財団事務所資金分を含む）となりました。繰越金が前年度より多かったのは、新型コロナウイルスにより各事業の開催が中止となり、その結果、繰越金が増加いたしました。

繰越金総額は、地区資金2,097,843円、地区特別会計45,731,535円、地区ロータリー財団事務所資金1,344,304円となり、2020-21年度会計へ引き継ぎをさせていただきます。

なお、補足説明として、新型コロナウイルス緊急支援のため地区資金前年度繰越金より4,830,516円を取り崩しました。また、地区ロータリー財団事務所保持分より1,961,380円を取り崩しました。

2019-20年度地区決算報告につきましては、昨日のガバナー補佐・会長・幹事会において、ご承認いただきました。

なお、2019-20年度地区会計報告の詳細につきましては、2019-20年度地区活動報告書へ掲載をさせていただきますので、ご高覧ください。

以上、改めまして皆さまのご理解ご協力に厚く感謝申し上げます。2019-20年度地区会計報告とさせていただきます。ありがとうございました。

●登録委員会報告



登録委員会委員長

丸川眞太郎

登録委員会の報告をさせていただきます。私は、大会登録委員会委員長、岡山西ロータリークラブ所属の丸川でございます。

当登録委員会の構成は、岡山西ロータリークラブ財津唯行会員、中村秀彦会員と私の合計3名でございます。昨日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして、登録委員会を開催いたしました。

ではここで、地区大会の登録者数をご報告申し上げます。会員登録者2,029名、ご家族登録者12名、クラブ事務局33名、特別参加者5名合計2,079名のご登録をいただきました。ご登録をいただきました全ての皆さまに心から感謝を申し上げ、ご登録者数のご報告とさせていただきます。誠にありがとうございます。

● 信任状委員会報告



信任状委員会委員長

古瀬 俱之

信任状委員会委員長、出雲中央ロータリークラブ所属の古瀬でございます。ご指名によりましてご報告を申し上げます。

信任状委員会の構成は、第3グループガバナー補佐 森脇宏さん、第6グループガバナー補佐 別府洋吾さん、第9グループガバナー補佐 川本平山さんの4名です。

昨日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして、信任状委員会を開催いたしました。

本委員会にて投票権をお持ちのクラブの選挙人につきまして、その数および資格条件を調査、審議いたしました。当地区の地区大会が開催される月の直前の半期人等分担金支払い期日におけるクラブ数は65クラブ、会員数は2,981名でございます。

これによりまして国際ロータリー細則第15条第5節第1項に基づく選挙人の総数は、123名となります。

各クラブからご提出いただきました信任状を審査いたしました結果、いずれも適格でありました。そしてこの信任状のすべてを選挙管理委員会にお届けいたしました。

以上、信任状委員会のご報告といたします。どうもありがとうございました。

● 選挙管理委員会報告



選挙管理委員会委員長

末長 範彦

選挙管理委員会委員長岡山ロータリークラブ所属の末長でございます。ご指名によりまして、ご報告を申し上げます。選挙管理委員会の構成は、第1グループガバナー補佐 道上正規さん、第4グループガバナー補佐 矢田信一さん、第7グループガバナー補佐 江口健一さん、第10グループガバナー補佐 槌田正則さんと私の5名です。

昨日14時から岡山国際ホテル松琴の間におきまして、選挙管理委員会を開催いたしました。本会にご出席の選挙人の123票につきまして、信任状委員会からそれらの方々が適格との報告がございました。

討議事項は、2021-22年度地区ガバナーノミニ、すなわち2023-24年度の地区ガバナーの指名手続きに係わる指名委員を地区指名委員会の委員とする件であります。この件につきまして、当地区は地区指名委員会制度を採用しております。そこで国際ロータリー細則第12条第3節に基づき、2021-22年度地区ガバナーノミニ、すなわち2023-24年度の地区ガバナーの指名手続きは、地区指名委員会で進めることを会長・幹事会に昨日提案いたし、慎重審議の結果、原案通り採択されました。



●大会決議案採択



大会決議委員会委員長

庄司 尚史

大会決議委員会委員長、境港ロータリークラブ所属の庄司でございます。

大会決議委員会の構成は、第2グループガバナー補佐 稲田泰博さん、第5グループガバナー補佐 右田明さん、第8グループガバナー補佐 廣野學さん、第11グループガバナー補佐 黒崎政彦さんの5名でございます。

昨日、岡山国際ホテル松琴の間におきまして、大会決議委員会を開催いたしました。2020-21年度地区大会決議案につきましてご説明申し上げます。お手元の大会プログラム28-29ページをご覧ください。本来であれば全文を読むところでございますが、時間の関係もございますので、項目のみ読ませていただきます。

- 第1号 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク氏の2020-21年度の目標に協力する件
- 第2号 国際ロータリー会長代理派遣に対するホルガー・クナーク会長へ感謝する件
- 第3号 国際ロータリー会長代理 木下光一氏ご夫妻に対する感謝の件
- 第4号 国際ロータリー第2690地区 古瀬俱之直前ガバナーに対する感謝の件
- 第5号 次年度地区大会開催の件
- 第6号 岡山市内の小学校に1校あたり10冊の図書寄贈の件
- 第7号 2021年台湾・台北国際大会参加の件
- 第8号 ホストクラブならびにコ・ホストクラブに対し感謝の意を表する件

以上8項目の決議案を決議していただくことになります。

以上、大会決議委員会の報告といたします。ありがとうございました。



地区ガバナー

菊池 捷男

ただいま、大会決議委員会委員長よりご報告がございました件の2020-21年度地区大会決議第1号から第8号につきまして、皆さまのご承認を賜りたいと思います。賛成の方は、拍手をお願いいたします。

(拍手) 賛成多数と認められましたので、承認されました。

ありがとうございました。

● 記念事業発表



記念事業委員会委員長

加計 役

ただいま、ご紹介いただきました岡山西ロータリークラブの加計でございます。

2020-21年度地区大会記念事業の担当委員長として発表いたします。

岡山市内の全小学校にそれぞれ図書10冊を寄贈いたします。これは児童の健やかな成長を

願うとともに、コロナ禍で暗くなった気持ちをリフレッシュしてもらいたい、活字に慣れ親しんで書物の素晴らしさを再認識して欲しいとの願いを込めたものです。

選定いたしました本は、本日記念講演会でご講演いただきますJAXAシニアフェロー川口淳一郎先生の小惑星探査機「はやぶさ」についての本、日本のロータリークラブ設立100周年を迎えるにあたり、明治大正昭和の時代を生き抜いて、奉仕の心を貫いた創設者米山梅吉の生涯を紹介した本など10冊でございます。次世代を担う人を育てていくことは、現代社会を生きる我らの使命だと考え当記念事業を行うことといたしました。

これをもちまして地区大会記念事業のご報告とさせていただきます。

寄贈図書の内訳

1. 10歳の君に贈る、心を強くする26の言葉：
哲学者から学ぶ生きるヒント
2. 1話5分！12歳までに読みたい名作100
3. 理系アタマを育てる
子ども実験教室 宇宙を飛ぶスゴイ技術！
～「はやぶさ2」「イカロス」に強くなる!!
4. 小惑星探査機「はやぶさ」大辞典
5. 気になるあの病気から自分を守る！
感染症キャラクター図鑑
6. こども六法
7. 小学生なら知っておきたい教養366
8. なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために
9. プラスチックのうみ
10. 〈日本のロータリークラブ創設者〉
米山梅吉ものがたり
～奉仕の心で社会を拓く～





●お礼のことば



岡山市教育委員会教育長
菅野 和良

皆さまこんにちは。今日は、国際ロータリー第2690地区の地区大会の開催、誠におめでとうございます。皆さま方には平素から学校教育に格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。またこのたびは、地区大会開催記念事業としまして、910冊もの図書を岡山市立の小学校にご寄贈いただきました。市民協働による人づくりを進める岡山市の教育への温かいご支援に重ねて厚くお礼を申し上げます。

本は心の栄養とも言われます。スマートフォン、インターネット、こうしたものが広がる情報化社会だからこそ、子どもたちには読書を通して、自分で考える力を養い、想像力を働かせて、豊かに物事を感じ取る力をはぐくんでいただきたい。読書習慣を身に着け、それを一生の財産にして欲しいと願っております。ご寄贈いただきました図書は、子どもたちの読書活動にしっかりと活用させていただき、子どもたちの健やかな成長に役立てて参ります。

聞くとところによりますと、日本初のロータリークラブが創立されて今年がちょうど100年ということで、9月には日本のロータリー100周年の記念切手も出たそうですが、皆さま方の奉仕の精神に基づく6つの分野での社会貢献に対しまして、心から敬意を表する次第でございます。最後に、国際ロータリー第2690地区の皆さまのますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、大変簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。皆さまおめでとうございます。

●地区ガバナーエレクトあいさつ



地区ガバナーエレクト
岩崎 陽一

今日は地区大会の成功、誠におめでとうございませう。コロナ禍の大変な中で準備をされました岡山西ロータリークラブ、コ・ホストクラブの皆さま、本当にありがとうございました。

昨年7月に、ビジョン声明が発表されております。

私も勉強不足であり意識がありませんでしたが、5カ年計画というのがビジョン声明でございます。私たちは持続可能な良い変化を生むために手を取り合って行動する世界を目指します、ということが書いてあります。戦略的優先項目4項目とセットで書いてあります。そしてもう一つ、時代の流れの変化に追いつこうというのがあります。ロータリーは時代の流れに追いつきなさいということが書いてあります。

私なりに考えてみますと、ロータリークラブも100年を迎えて温故知新の時が来たのではないかと思います。古きを訪ねて新しくを知る。中核的価値観の親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップは変わらないと思いますが、各クラブの独自性、歴史を知りながら、守るべきは守り、変えるべきは変えていく時期に来たのではないかと思います。

これから1年、ガバナー年度を迎えるのにあたり『超我の奉仕』=よく奉仕をする人はよく報われる=、そしてアルフレッド・アドラーの『幸せになる唯一の方法は、人に奉仕をすることが唯一の自分が幸せになる方法』という言葉を中心に刻みながら、このガバナー年度を頑張っていきたいと思っています。

力も足りませんし、経験もありませんが、全力でやりますので、どうぞ皆さんよろしく願いいたします。

●地区ガバナーノミニー
あいさつ



地区ガバナーノミニー
友末 誠夫

初めまして、津山RCの友末でございます。縁があって、この壇上に立つことに至りました。只今、菊池ガバナーから過分な御言葉をいただきましたが、私は決してそのような人物ではありません。父の影響を多分に受けて幼少期を過ごしたことが異端的な特性が私に宿ったようです。小学生になると、動く物や音の出る物に異常な関心を示して分解し、それを元通りに戻してしまうので周囲を驚かせていました。父は戦前、戦時中、海軍の特務技術研究員でしたが、終戦後は自宅にこもって民生用の技術研究に没頭、祖父は家の蓄財や不動産を売却して父を支えていましたが父のそれは収入に至らず、私が小学校3年生の時に我が家は破綻、それを救ったのが母で実家の支援で始めた採卵養鶏事業でした。小学校5年生のある日、「汚れた卵を奇麗にする機械を作ってくれないかなあ…」と、祖母がつぶやいたことに応じて作った幼稚な“卵の汚れ落とし機”でしたが上手く機能しました。中学生になっても改良を重ね、それを見た先生が全国少年発明展に出席、特賞の総理大臣賞を受賞したのです。

それが新聞報道され、当時、創成期の採卵養鶏事業者からの引き合いが殺到、母は商機到来と捉え、成果の上がらない父を説得し続け、1959年3月、私の中学卒業に合わせて“卵の汚れ落とし機”の製造販売事業を開業、私は高校受験日も忘れて商業製造の雛形機製作に没頭し、母の采配で事業は順調に方向付きました。その後、私は大学に進みましたが、家業が気に入り寸暇を惜しんで津山に帰省しては鶏卵の商品化機械装置の創出に取り組みしました。

1966年、縁があって米国大学留学を果たして視野を広め思考力、創造力を高めると米国の軍事会社の民生技術を導入して先進の鶏卵商品化機械装置を創出、今日の“バック詰め卵”に代表される物価の優等生と呼ばれる商品卵生産事業の発展を牽引、日本の鶏卵産業確立に大きな足跡を残しました。

1999年、私は津山RCに入会、今年で在籍20年ですが、このたび、第8グループのバストガバナーの皆さま方にガバナーノミニーに引っぱり出されたのです。私が最初にロータリーを知ったのは、米国の大学留学後の間もない頃、苦学生に私に現地のRCから奨学金を得る幸運を掴んだのです。その時“Is it true or not.”から始まる4 ways test の解説を受け、「これは、我々が人間としての生き方を問い掛けているのだ」と語られたことに脳裏が爽やかに反応したのを覚えています。加齢の進む我が身をもって、第2690地区のRC活動に何をすれば、人間としての価値が求められるのかと、少々夢を描いているところであります。どうかよろしくご支援いただきますようお願い申し上げます。

●次期開催地ホストクラブ
あいさつ



次期地区大会実行委員長
田中 章夫

失礼いたします。次年度次期大会実行委員長の鳥取西ロータリークラブの田中でございます。ごあいさつの前に一言申し上げます。このたびの地区大会開催にあたりましては、このコロナ禍の中でこのように立派に開催されましたホストクラブならびにコ・ホストクラブの皆さまに、大いに敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、次年度はさきほどのビデオで紹介いたしましたように岩崎ガバナーの下、麒麟の町鳥取で開催されます。麒麟とは古代中国の神話に出てくる霊獣ではありますが、この麒麟をモチーフに初めて獅子舞をもたらししたのは、ご当地岡山から国替えとなった初代鳥取藩主池田光仲がもたらしたものでございます。以来、幸せをもたらし舞として、鳥取地区で約150カ所、但馬地区で約10カ所程度、確認できる立派な日本遺産でございます。記念講演は、さきほど申しましたように、国際政治学者の三浦瑠璃さんを予定しております。また、ご存じのように鳥取は食材の宝庫でもあり、皆さまにご満足いただけますよう、計画中でもあります。コロナの状況が未確定の状況ではありますが、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。どうかよろしく願いいたします。それでは、最後に鳥取弁で皆で大きな声で呼びかけさせていただきます。

せーの「きなんせえ」



本会議

● 記念講演



国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
シニアフェロー
川口 淳一郎

「はやぶさ式思考法」で 令和の日本を拓く

皆さん、こんにちは。講演タイトルの『「はやぶさ」式思考法』とは、私の著書の題名の事です。それでは早速、お話をしていきたいと思います。

来たる2020年12月6日、探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」の探査を終えて地球に帰還します。

はやぶさ2がリュウグウに着陸したのは、昨年2月のことでした。その時ははやぶさ2は、砂を巻き上げてサンプルを採取するために、リュウグウの地面に弾丸を打ち込むことに成功しています。実はこれは、「はやぶさ初号機」が、2005年に小惑星「イトカワ」で挑み、しかし失敗したことでした。ですから、はやぶさ2は13年越しの宿題を果たしてくれたわけです。

さらにははやぶさ2は、爆薬を用いて重さ2キロもの銅の塊をリュウグウに打ち込むことにも成功しています。クレーターを人工的に作り、風化していない深い部分の試料を手に入れるためのミッションです。はやぶさ2で初めて導入されたもので、こんな探査は世界初です。全く新しいことを始められたことをうれしく思います。

はやぶさ初号機の誕生のルーツは、1970年までさかのぼります。実は当時、私たち研究者は、深く悩んでいました。

1969年7月に、アポロ11号が月面着陸しました。人類が月面に足跡を残したのです。それから遅れること半年、ようやく日本は、最初の人工衛星「おおすみ」を打ち上げ

ることができました。しかもアポロ計画で飛行士を打ち上げたロケットは、高さ100メートル以上、重さ2000トンという貨物船クラスの巨大なものでした。一方、日本最初の人工衛星を打ち上げたロケットは、長さ10数メートルというまるで電信柱のような貧弱なものでした。人工衛星も、重さ10キロにも満たない小さなものです。日本は世界で4番目に人工衛星を打ち上げた国ですから、先進国の一員とは呼べる。しかし、中身の差はあまりに歴然としていました。

私たちは自問していました。「今後もアメリカ・ソ連のマネばかり続けるのか。背中を追って月を目指すのか。確かにそれはリスクも小さく、誰からも批判されない道だ。しかし、それで本当にいいのか」。議論を重ねた末に、私たちが見出したオリジナルなゴールこそが、「小惑星の探査」でした。

当時、この「はやぶさプロジェクト」を国際会議で発表した際に返ってきたのは、否定と皮肉の言葉ばかりでした。そもそも、小惑星に探査機を送ることの意義も理解されませんでした。しかし、私たちは確信していました。小惑星から試料を持ち帰れば、太陽系の神秘に迫ることができる。

地球の中心部がどんな物質でできているか、誰にもわかっていません。岩よりもずっと重い物質であるため、地中の奥底に沈み込んでしまっているのです。しかし、重力の小さな小惑星の場合、重い物質も軽い物質もすべて表面上に残っています。地球は、小惑星が集まって生まれたと考えられています。つまり小惑星の表面を採取すれば、地球の奥底に沈み込んだ物質を知ることができる。これこそ、小惑星の表面を探査する意義です。

1976年に、バイキングというNASAの探査機が火星に着陸を成功させたことも、私たちの背中を押してくれました。直径1メートルぐらいしかない探査機です。この小さな探査機が2度にわたって自動で着陸し、パラボラアンテナで地球にデータを送ってくる。さらにシャベルを伸ばして火星の土壌をすくい、温めて生命の培養実験まで行った。今考えてもすごいことです。

私たちは1985年に、第1回目の「小惑星サンプルリターン研究会」を開きました。

この年は、私たちがハレー彗星に向けて探査機を打ち上げた年でもあります。これに成功したことからも、勇気と自信を得ました。

それから10年間、イオンエンジンの研究を続けました。そして1996年、ようやくはやぶさプロジェクトを実際に本

格始動させられたのです。

2016年、NASAがオシリス・レックスという探査機を打ち上げました。これはNASA版はやぶさプロジェクトです。小惑星から試料を持ち帰るということの意義に、ようやくNASAも気付いたということです。これに日本が13年も先行しているということを、私は誇りに感じています。

しかし、その一方で、宇宙開発において、日本はまだまだ入門者に過ぎないのだと痛感したこともありました。

はやぶさは、地球から約3億キロ離れた場所からデータを送ってきました。その時の通信速度は、一秒間に8キロビット。ごく低速です。一方、NASAが冥王星に向けて打ち上げた探査機・ニューホライズンは、木星という、はやぶさがいた場所よりもさらに離れた場所から、実に38キロビットという速さでデータを送ってきました。もしも同じ木星から私たちの技術でデータを送ると、我々の通信速度は2キロビット程度まで落ちてしまいます。つまり世界水準と比べて、20倍近い差が生まれているということです。

かつて、ボイジャーという探査機が海王星を通り過ぎるとき、「データを受信してくれませんか」とNASAから頼まれたことがあります。しかし、私たちの通信性能を見たNASAの研究員は、その要望を取り下げてしまいました。私たちの数字が、NASAにとって50、60年前の技術だったからです。非常に恥ずかしく思いました。そんな世界との差は、縮まるどころか、今なお拡大しているように感じています。

では、その差を縮めるためには何が必要なのでしょう

か？
女子プロテニス・大坂なおみ選手の元コーチであるサーシャ・バイン氏の言葉に、こんなものがあります。「全ては心から始まり、体はそれについてくる」。これからお話しすることも、全ては心から始まります。

たとえば今、「宇宙に出かけるための手段とは？」と問われたら、大多数の人が「ロケット」と答えるのではないのでしょうか。実はロケットは、あまり効率的な乗り物ではないのです。ロケットには、酸素のない宇宙で燃料を燃やすための酸化剤が大量に積み込まれています。打ち上げ後は、燃焼を終えたエンジンを下から切り離していきます。しかし実はその時点では、周囲の大気にはまだまだ十分な酸素があるのです。つまり、持っていかずとも済む荷物を抱えて飛んでいるということ。いずれはジェット機に取って代わられるでしょう。世界中の研究者がそう結論づけています。

そんな「古代の乗り物」のロケットが今なお作り続けられている理由は、自分たちが作り方をよく知っていてリスクが低いからにほかなりません。しかし、アメリカや中国はすでに、音速の10倍20倍で飛ぶ飛行機の実験を行っ

ています。一方の日本はと言えば、予算が下りずその挑戦すらさせてもらえていません。このまま既知のものばかりに頼っていては、数十年後、出張や旅行の際は中国製の極超音速機に頼って出かけなければならなくなるかもしれません。

数年前、青色LEDを発明した赤崎勇さん、天野浩さん、中村修二さんがノーベル物理学賞を受賞しましたね。赤崎さんと天野さんは名古屋の大学の先生です。

窒化ガリウムの結晶化に成功しました。実はこの素材は、世界中の研究者にさじを投げられていたものでした。

結晶化の成功を先生が学会で発表したとき、聴講者はたったひとりだったそうです。凡人が不可能とと思っていることに、天才は果敢に挑戦する。なぜなら彼らには、その未来、まだ来ないものが見えているからです。

中国の古典に「愚者は成事に暗く、智者は未萌に見る」という言葉があります。ものごとが形になって表れてくる前に、次にやることを見定められてこそ賢者の証ということです。

講演を行うと、若手起業家からよく相談されます。「いま温めているアイデアは、世界で自分ひとりしか価値を見出していないものかもしれない」と不安そうに。私はそれに対して、「あなたひとりしか目をつけていないような新しいことならば、大きなイノベーションに通じるかもしれない。自信を持って挑んでほしい」とアドバイスします。

「今見えているものは、みんな過去のもの」。これは私の上司である、故・長友信人教授の口癖でした。まだ見えていない未来を探して歩かねばならない。世界との差を縮め、これからの日本をより良い方向へ切り開いていくためには、勇気を持って新たなことに挑戦し続けることが不可欠だと考えます。

人材育成に関しても、似たところがあると感じます。少子化の進む日本では、上手に後進を育てる術はますます大切になるでしょう。私たちの業界では、人材育成のコツをこういう言葉で表します。「どんなにみすぼらしくても構わないから、鯛の切り身ではなくめざしにしろ」。

約10年前、「イカロス」というプロジェクトを実施しました。リーダーに据えたのは、35歳の若者でした。大学院を修了したばかりの駆け出しです。経験ありません。こちらからハラハラドキドキでした。しかし、彼の成長には目覚ましいものがありました。信じ、裁量を任せて、大きな挑戦をさせるからこそ、人は伸びるのだと思います。

昔ながらの従弟制度という関係性には、大きなメリットがあります。技術というのは、手取り足取り教えるものではない。そんな知識は身からたやすく離れてゆく。親方の手先から盗みながら、自分でチャレンジを重ねて勝ち取ったものしか、本当の実力にはならないと考えます。

組織の成長に関して言えば、1代目の引き際もポイント

になるでしょう。はやぶさ2のプロジェクトが始まる時、もちろん私は継続して携わりたいと思いました。自分こそ最も遂行能力が高いという自負もありますからね。しかし、私がプロジェクトを率い続けられようか。私が引退した直後、組織の力はぐんと落ち込むことになってしまうのではないか。だからこそ、1代目は早めに身を引きました。その代わりに、現場で若い世代と協働作業を行う。そうすることで、技術や経験が伝承する。1代目の成果の上に2代目の成果を重ねることができるようになると思います。

残念ながら、日本には、ルールやガイドラインをまっとうすることこそが本務だと誤解している人がたくさんいます。まるで笑い話のようですが、はやぶさプロジェクトの進行中にもこんな問い合わせの電話がかかってきたことがあります。「イトカワ上で電波を発信する許可はちゃんと申請したんですか」。そんな許可、どこに必要なんでしょうか。

その反対に、新しいことをやりたいと思ったら、「規制がなかったら何ができるか」を考えるべきです。規制というものは、決して未来永劫続くものではありません。崩れることがないと思われていたベルリンの壁でも、50年もたずに崩れてしまった。数十年という長い規模のサイクルで新しい物事を始めようと思ったら、規制にとらわれてはいけいないのです。

オバマ大統領は、退任の1年前、ある法律に署名しました。宇宙資源の権利に関する法律です。「小惑星または月面で米国籍の個人または企業が発見した資源は、その発見者に権利が帰属し、発見者の自由にできる」と書かれています。はやぶさの帰還後、欧米にはたくさんの宇宙不動産会社ができました。はやぶさが、宇宙から資源を持ち帰れることを証明したからです。しかし、日本には1社もできません。自主規制するばかりで、権利の主張に先んじようという考えを持っていません。

かつて、学生からこんな質問をされたことがあります。「既に多くの技術や製品が実用化されています。本や文献も膨大にあります。いったいどこまで勉強しておいたらいいいのでしょうか」。実にありがちな、日本人学生の典型的な質問です。私の答えはこうです。ここまでやっておけばイノベーションになる、ノーベル賞が取れる、そう前もって約束された勉強などあり得ません。

また、こう言う人もいました。「私はこの一生をささげて、しっかりと土台をつくりたい」。私は、ピラミッドの土台づくりで人生を終えてほしくありません。ピラミッドは頂点があるからこそピラミッドなのです。一箇所でもしっかりした足場を見つけたら、そこに竹竿をずっと立てて歩き始めればいい。最初は頼りなく感じるかもしれませんが。しかしやがて竹竿が太く、立派に育っていけばいい。見るべきものは塔の先端です。

不完全を恐れてはならない。いま開いているページの理解度が、100パーセントではないかもしれない。不安に思うかもしれませんが。それでも、勇気を出してページをめくる。そうしてこそ初めて、まだ見ぬ広い世界と出会えるわけです。

私はよく、「セレンディピティ」の大切さを若者に伝えます。「偶然の出会いやきっかけによって思わぬ発見をする」という意味の言葉です。新たな知見を得るためには、行動が不可欠ということ。それが科学や芸術をドライブしていくものだと思います。

著書『「はやぶさ」式思考法』の中で、「せんべいの耳は残さなくてはいけない」と書きました。せんべいの型に材料を流し込むと、生地が型からはみ出して耳ができます。この部分が無駄と考えて生地の量を減らしてしまうと、型いっぱいになりません。肝心の中身が小さくなってしまいます。リスクを避けることばかりに集中している、イノベーションは生まれないということです。

はやぶさ2は、はやぶさ初号機の2倍3倍の成果を上げている。とするならば、初号機が達成したことはなんでしょう。私は、ゼロからイチを生んだということだと思っています。プロジェクトにマニュアルやレシピはありませんでした。

よく海外のメディアから、「どうして前人未到の着想を生み、またそれを実現することができたのでしょうか」と尋ねられます。私は、「日本ロケットの父・糸川英夫から続く血脈、研究所の文化のおかげです」と答えます。1年に1度人工衛星を打ち上げていただけの国が、惑星探査で国際協働する。それに挑み、実現できたのは、自分たちに強い自信があったからでしょう。「できない理由」ではなく、「できる理由」を探して挑むという姿勢が、私たちの研究所には文化として根付いているのです。

イスを積み重ねて踏み台を作り、天井に手を伸ばして何かをつかみ取るとします。イスの脚は何本あったらいいでしょうか。最小限は3本です。しかし、日本人は4本目、5本目の脚を付けろと言いがちです。イスの脚は3本でいい。それが、私たちの研究所の文化です。自分たちが自信を持てる3本脚のイスは何十段でも重ねられる。どんな高い所にも手が届く。ですから私たちにとっては、外国に模範や手本が存在する必要はありませんでした。自分たちを信ずればよかったです。全ては心から始まりました。

無から有をつくる。その精神と経験を、次の世代に伝えていきたいと考えます。やがてそれが文化や伝統と呼ばれるほどに浸透してゆけば、日本を変える大きな力になるだろうと信じています。初めてのことで、できる理由を探して自分を信じる。果敢に挑む。そうしてこそ、本当の成果は得られるのです。

●国際ロータリー会長代理講評



国際ロータリー会長代理

木下 光一

いよいよこの地区大会も幕を閉じようとその時間が近づいてまいりました。まさに伝統と格式ある第2690地区にふさわしい地区大会であったなと感じております。菊池ガバナーをはじめ、地区大会の関係者の皆さま方のご尽力に本当に心から敬意を表し、講評を述べたいと思います。この環境でという形で地区大会が開催されるのかなと私も非常に興味津々でございましたが、まさにロータリーの知恵を集めてこういう形で立派に地区大会ができるということを証明した。本当に素晴らしいことだと思います。

地区大会に必要なことはすべて盛り込まれて、効果的に計画的な素晴らしい大会になったのだなと思っております。この地区大会の成功を糧として、今年度の残りの期間、コロナに負けないだけでなく、環境の変化に対応して、きちんと成果を上げるという充実した一年にしたいと思っています。皆さまにはそれをやり遂げる十分な力があるということが証明されたわけであります。自信をもって、仲間と手を携えて力強く前進をしていただきたいと思います。

また、本大会で私も強調して申し上げましたし、先ほどの記念講演でもそういうお話が随所に出てきたわけですが、やはり目標をきちんともって若い人を育てていくという、それは日本の社会全体がその課題を抱えているわけですから。

年配の方、先輩の皆さま方はやはり不安なのですね。全面的にこの人たちに任せて大丈夫なのかどうしても思うわけですが、若いのですから失敗もするでしょう。でも失敗をする中から大事なものを掴み取って、その次に本当にその時代、社会を担っていく人材になってくれるわけです。それを温かく見守っていくのが私も含めてですが、先輩である我々の役割だろうと思います。そんなことができるように自分を律して鍛えていく、それがロータリーでの長い年月の一つの意味だと思います。そして最後にロータリーというのは市民社会の良心なのですね、コンシエンスなのですね。これがあるから社会は最終的には安定して続いていけるのです。

今の時代というのはいろいろなことがあって、いわゆる、分断と対立というのが随所に起こってしまっているわけですが、これを乗り越えていけるのもロータリーだと思います。他にこれができるころはおそらくないと思います。国同士なんか永久にできませんよね。あるいは民族同士とかですね。こんなのほっといても全くできるようにはならないと思います。でもそれを乗り越えてできる可能性があるのがロータリーだと思います。

それが、ロータリーが本質的に持っている理念の現れだと思います。私たちはその良心の一人なのですね。そういう意味で仲間を増やしていくということもその良心を強くしていくということにつながっていくわけであります。

そして素晴らしい持続可能な私たちの良い社会を築いていく。そういう役割を担ってこれからもロータリーの活動を一生懸命、また、楽しみながらやっていきたいと思っています。皆さま方とこの地区大会で語り合い、実践に向けた決意を固めあったことを大変うれしく思います。どうかこの一年、そしてその先もRI第2690地区が、ますます充実して発展していかれることを願って、私の講評といたします。ありがとうございました。



●謝 辞



地区ガバナー

菊池 捷男

木下様におかれましては、昨日からの地区指導者育成セミナーでの貴重なお話、本日の地区大会におけるご講話本当にありがとうございました。

私も木下様のお話を聞くことで、初めて知ったという知識がずいぶんありました。

特に我々が最も大切にしている価値観である職業奉仕、職業倫理というものが、時代を超えて今日まできて、起業家の手でもっと新しい価値をそこに加えたものにして実践していく意味のことをお聞きしました。

先ほど川口先生のお話では、我々既成の概念に縛られてしまっている、いやでも示された、そうではないんだ、ということも教えられました。

本当に最後までご出席いただいたロータリアンの皆さま、お付き合いくださいまして、この大会で勉強していただきありがとうございます。

おそらく、今日の地区大会でも皆さまも新しい発見をされたのではないかと思います。私が非常に強く感じたのは、ロータリーはいかに素晴らしい団体であるか、組織であるか、人の集まりであるかということです。

どうか皆さまこれからも、いわばロータリー道を皆さまが手を携えて邁進していく機会であればと願っております。そのような経験をさせていただきましたこと、ひとえに木下様、また皆さまのご協力の賜物と思い、感謝しております。

ここで改めて御礼申し上げます。本日は、どうもありがとうございました。

●閉会あいさつ



地区代表幹事

末吉 誠一

皆さま、2日間にわたりまして大変お疲れさまでございました。

木下国際ロータリー会長代理ご夫妻をはじめ、ご来賓の皆さま方、ご臨席誠にありがとうございました。

おかげをもちまして本会議のすべての議事を無事終了することができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます

今大会は2年以上前から準備に入っておりましたが、新型コロナの影響で、紆余曲折の中、地区外からの来賓の方は呼びできない、懇親会の中止など縮小した形での大会（これもまさに多様性）の開催が決まりましたのは5月下旬でした。しかしながら会員一同、WITHコロナ・AGAINSTコロナの中「さすがロータリーだな」と言われるような大会を目指して頑張っていました。

ただ、準備不足の面はどうしても否めません。不行き届きの点はどうぞ寛容の心でご容赦いただければ幸いです。

最後になりますが、来年6月の台北での国際大会、また10月の鳥取での岩崎ガバナー年度での地区大会に皆さまとtogetherできることを楽しみにしております。誠にありがとうございました。

それではこれもちまして2020-21年度国際ロータリー第2690地区 地区大会を閉会とさせていただきます。

皆さまお疲れさまでございました。

●物故会員 (敬称略)

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします

	お名前	クラブ名	ご逝去日	享年	在籍 年数
★	岡本 博之	岡山丸の内	2019年8月19日	85	29
★	浅田祐次郎	岡山中央	2019年8月22日	79	30
	長谷川 修	倉敷	2019年9月8日	85	29
	池淵 英明	松江しんじ湖	2019年9月15日	80	24
	光岡 明弘	津山	2019年9月28日	75	22
★	林 壽延	鳥取西	2019年10月1日	90	30
	山根 学	岡山南	2019年10月14日	70	32
	武田 修一	岡山	2019年11月24日	89	52
	樋口 順一	倉敷南	2019年12月13日	60	13
	児島 道浩	岡山東	2019年12月19日	60	18
	島田 康夫	浜田	2020年3月1日	82	36
	福本 浩治	高梁	2020年3月3日	59	3
	小澤 秀多	松江しんじ湖	2020年3月26日	72	18
	松本 眞	米子	2020年4月4日	81	32
	玉川 海潤	鳥取中央	2020年5月18日	69	30
	熊野 光紀	倉吉東	2020年5月21日	86	50
	橋本 彰郎	津山	2020年7月1日	81	37
	小野 保	倉敷瀬戸内	2020年7月19日	79	33
	北山 拓	美作	2020年7月23日	66	1
	中村 克己	米子南	2020年7月30日	94	34

期間：2019年8月1日～2020年7月31日

★名誉会員



●地区大会表彰

2019-20年度における国際ロータリー表彰

ロータリー会長特別賞

○プラチナ賞

鳥取北RC 出雲RC 出雲中央RC 出雲南RC
大社RC 倉敷南RC 岡山南RC

○ゴールド賞

倉敷東RC 倉敷水島RC 岡山東RC 岡山後楽園RC

○シルバー賞

米子東RC 松江東RC 岡山丸の内RC

ロータリー賞

鳥取RC 江津RC 岡山西南RC

ロータリー財団特別功労賞

鳥居 滋（岡山東RC）

2019-20年度における地区表彰

ロータリー米山記念奨学会寄付達成クラブ賞

○ロータリー米山記念奨学会寄付達成クラブ

4千万円達成クラブ 松江南RC 出雲RC

○ロータリー米山記念奨学会寄付総額上位5クラブ

岡山南RC 倉敷RC 岡山RC 岡山東RC
出雲南RC

○ロータリー米山記念奨学会個人平均寄付額上位5クラブ

倉敷RC 出雲南RC 倉吉RC 出雲中央RC
岡山北西RC

ロータリー財団地区奉仕賞

○アーチ・クランフ・ソサエティ（管理委員会サークル）

佐藤 芳郎（岡山南RC）

国際ロータリーのロータリー財団創始者アーチ・クランフの名前にちなみ、創設した「アーチ・クランフ・ソサエティ」は、ロータリー財団で最高に栄誉ある認証です。累計で25万ドル以上を寄付した方を対象としています。

○ロータリー財団 恒久基金・冠名基金

佐藤 芳郎（岡山南RC）

○メジャードナー

レベル2

土井豆勝磨（出雲南RC） 山内 瑛明（出雲南RC）

レベル1

岩崎 陽一（鳥取西RC） 福代 新治（出雲南RC）

今井 健（岡山南RC） 小松原正吉（岡山南RC）

小川 健（岡山南RC） 大岩 道典（岡山南RC）

尾崎 敏之（岡山南RC） 油谷 直幸（岡山西南RC）

地区目標達成賞

○ロータリー財団の年次基金への寄付において1人当たり

150ドル以上達成したクラブ

倉吉RC 鳥取RC 鳥取西RC 境港RC

松江南RC 出雲RC 出雲中央RC 出雲南RC

浜田RC 井原RC 笠岡RC 笠岡東RC

新見RC 総社吉備路RC 高梁RC 児島RC

児島東RC 倉敷RC 倉敷中央RC 倉敷東RC

倉敷水島RC 倉敷瀬戸内RC 美作RC 津山RC

津山西RC 備前RC 岡山RC 岡山東RC

岡山北西RC 岡山後楽園RC 岡山旭川RC 岡山中央RC

岡山南RC 玉野RC 岡山城RC 岡山西RC

岡山西南RC

○ロータリー米山記念奨学会の普通寄付（年5,000円/人）かつ

特別寄付（10,000円/人）達成クラブ

倉吉RC 鳥取RC 鳥取中央RC 境港RC

松江南RC 出雲RC 出雲中央RC 出雲南RC

浜田RC 笠岡RC 新見RC 総社吉備路RC

高梁RC 児島RC 倉敷RC 倉敷東RC

倉敷水島RC 津山RC 津山西RC 岡山RC

岡山東RC 岡山北西RC 岡山後楽園RC 岡山旭川RC

岡山北RC 岡山南RC 玉野RC 岡山備南RC

岡山城RC 岡山岡南RC 岡山西RC 岡山西南RC

●地区大会表彰

○会員増強目標達成クラブ

*会員29名以下のクラブ純増1名

益田RC 益田西RC 総社吉備路RC 倉敷水島RC
美作RC 岡山中央RC 岡山城RC

*会員30名以上のクラブ純増2名

鳥取RC 米子中央RC 大社RC 津山RC
津山西RC 岡山旭川RC

○ロータリーカード推進賞（取得率100%クラブ）

隠岐西郷RC 益田RC 笠岡東RC 新見RC

古瀬俱之地区ガバナー特別賞

○会員増強賞（会員増加率が地区で最も高かったクラブ）

米子中央RC

○会員増強賞（新会員が地区で最も多かったクラブ）

津山RC

○青少年奉仕クラブ特別賞

（新規設立ロータリーアクトクラブの功績に対して）

出雲RC

ボール・ハリス・ソサエティ入会者（2019-20年度）

山田 暁（倉敷東RC）

三宅 典一（倉敷南RC）

白髪 宏司（倉敷南RC）

菊池 捷男（岡山西RC）

2020-21年度における地区表彰

菊池捷男地区ガバナー特別賞（2020年6月30日現在）

○出席優秀賞（30年以上ホームクラブ100%出席会員）

増谷 立夫（境港RC）

信太 秀夫（松江RC）

西井 弘人（玉島RC）

中井 靖典（真庭RC）

木口 盛雄（岡山中央RC）

近藤 勇進（玉野RC）

○在籍50年功労賞（ロータリークラブ在籍50年になられた会員）

安住 庸雄（鳥取RC）

竹田 達夫（鳥取北RC）

米田弥寿雄（岡山東RC）

井藤 勝義（岡山北RC）

○長寿賞（満90歳を迎えられた会員）

佐々木福一（倉吉RC）

加藤 一吉（鳥取西RC）

光井 伸（笠岡東RC）

吉田 生（津山西RC）

○ロータリーアクト地区功労賞

2019-20年度地区ロータリーアクト代表

宇野 克俊（倉敷南RC）

地区ガバナー ユニーク・ロータリアン賞

山本 浩一（倉吉中央RC） 石谷 暢男（鳥取RC）

上森 英史（米子東RC） 高橋 泰孝（出雲RC）

中村 浩吉（新見RC） 仲田 永造（高梁RC）

桐野 宏司（倉敷南RC） 川 博久（津山RC）

亀川 芳紀（備前RC） 藤木希実子（岡山北西RC）

藤原 學（岡山後楽園RC） 秋山 秀行（岡山南RC）

西崎 純郎（岡山西RC）

感謝状贈呈

国際ロータリー会長代理 木下 光一（大分城西RC）

直前ガバナー 古瀬 俱之（出雲中央RC）

直前地区代表幹事 岸 篤彦（出雲中央RC）

直前地区会計長 廣原 俊平（出雲中央RC）

直前地区大会実行委員長 山代 裕始（出雲中央RC）

2019-20年度

第1 グループガバナー補佐 村木 晴一（倉吉RC）

第2 グループガバナー補佐 越河 允（米子中央RC）

第3 グループガバナー補佐 矢田 和弘（松江東RC）

第4 グループガバナー補佐 佐々木哲也（平田RC）

第5 グループガバナー補佐 高橋 功一（浜田RC）

第6 グループガバナー補佐 金谷 晋爾（玉島RC）

第7 グループガバナー補佐 楠戸登美夫（倉敷中央RC）

第8 グループガバナー補佐 原 武仁（真庭RC）

第9 グループガバナー補佐 岡本富美子（備前RC）

第10 グループガバナー補佐 今井 健（岡山南RC）

第11 グループガバナー補佐 油谷 直幸（岡山西南RC）



● 来賓・特別招待者・特別参加者

特別来賓

岡山県副知事 菊池 善信
岡山市長 大森 雅夫

国際ロータリー

国際ロータリー会長代理 木下 光一(大分城西 RC)
令夫人 木下 貴鶴
元国際ロータリー理事 渡辺 好政(児島 RC)

特別招待者

直前地区代表幹事 岸 篤彦(出雲中央 RC)
直前地区会計長 廣原 俊平(出雲中央 RC)
直前地区大会実行委員長 山代 裕始(出雲中央 RC)
次期地区代表幹事 吉田 博(鳥取西 RC)
次期地区大会実行委員長 田中 章夫(鳥取西 RC)
次々期地区代表幹事 河本 秀生(津山 RC)

第2690地区

パストガバナー 延原 正(岡山南 RC)
令夫人 延原 敬子
パストガバナー 鳥居 滋(岡山東 RC)
令夫人 鳥居 弘子
パストガバナー 伊藤 文利(倉吉 RC)
パストガバナー 森田昭一郎(倉敷 RC)
令夫人 森田 経子
パストガバナー 森本 信一(津山 RC)
パストガバナー 松本 祐二(益田西 RC)
パストガバナー 佐藤 芳郎(岡山南 RC)
令夫人 佐藤 享子
パストガバナー 庄司 尚史(境港 RC)
令夫人 庄司 裕子
パストガバナー 末長 範彦(岡山 RC)
令夫人 末長百合子
直前ガバナー 古瀬 俱之(出雲中央 RC)
令夫人 古瀬 和子
地区ガバナーエレクト 岩崎 陽一(鳥取西 RC)
令夫人 岩崎美由紀
地区ガバナーノミニー 友末 誠夫(津山 RC)

特別参加者

地区ローターアクト代表 東 春香(米子 RAC)
直前地区ローターアクト代表 宇野 克俊(倉敷南 RAC)
地区米山学友会副会長 李 阿敏
岡山南ロータリー地域社会共同隊代表 柴坂 雄介
岡山中央ロータリー地域社会共同隊代表 山下 弥生

地区大会資料

●地区運営役員・地区大会各種委員会

地区運営役員

地区ガバナー	菊池 捷男（岡山西 RC）
地区研修リーダー	末長 範彦（岡山 RC）
地区代表幹事	末吉 誠一（岡山西 RC）
地区副代表幹事	桑原 一（岡山西 RC）
地区副代表幹事	岸 幹二（岡山西 RC）

登録委員会

委員長	丸川真太郎（岡山西 RC）
委員	財津 唯行（岡山西 RC）
委員	中村 秀彦（岡山西 RC）

信任状委員会

委員長	直前ガバナー	古瀬 俱之（出雲中央 RC）
委員	ガバナー補佐	森脇 宏（松江しんじ湖 RC）
委員	ガバナー補佐	別府 洋吾（総社 RC）
委員	ガバナー補佐	川本 平山（岡山後楽園 RC）

選挙管理委員会

委員長	バストガバナー	末長 範彦（岡山 RC）
委員	ガバナー補佐	道上 正規（鳥取北 RC）
委員	ガバナー補佐	矢田 信一（出雲中央 RC）
委員	ガバナー補佐	江口 健一（倉敷瀬戸内 RC）
委員	ガバナー補佐	槌田 正則（玉野 RC）

地区大会決議委員会

委員長	バストガバナー	庄司 尚史（境港 RC）
委員	ガバナー補佐	稲田 泰博（米子 RC）
委員	ガバナー補佐	右田 明（益田 RC）
委員	ガバナー補佐	廣野 學（津山中央 RC）
委員	ガバナー補佐	黒崎 政彦（岡山備南 RC）

●地区大会実行委員会

地区大会実行委員長	松田 正己
地区大会特別顧問	上杉 隆士
地区大会総括責任者	山下日出夫
地区大会副実行委員長	丸川真太郎
地区大会副実行委員長	大森 茂
地区大会副実行委員長	小原 範夫
地区大会会計長	五藤 榮一
総務・登録・宿泊委員長	丸川真太郎
接遇委員長	村山 洋二
表彰委員長	永瀬 忠亮
救護委員長	平井 義一
受付委員長	利守 忠義
交通・駐車場委員長	岸 幹二
広報・PR 委員長	川端 英男
講演委員長	福岡裕美子
大会進行委員長	小山 壱也
設営・パネル展示委員長	幸野 源
記念事業委員長	加計 役
大会記念テニス委員長	唐井 一成
記録委員長	佐藤 睦子
新型コロナウイルス 感染症対策委員長	末吉 誠一

ホストクラブ

岡山西 RC 会長	藤原 恵子
幹事	道廣 司

コ・ホストクラブ

高 梁 RC 会長	藤本 誠司
幹事	薬師寺龍盾
岡山城 RC 会長	津嶋 明
幹事	笠原 武

●参加登録者数

グループ	クラブ名	会員	家族	クラブ事務局
第1グループ	智 頭	4	0	0
	倉 吉	30	0	1
	倉 吉 中 央	13	0	0
	倉 吉 東	9	0	0
	烏 取	17	0	1
	烏 取 中 央	17	0	1
	烏 取 北	25	0	1
第2グループ	烏 取 西	59	1	3
	境 港	41	1	1
	米 子	24	0	1
	米 子 中 央	4	0	0
	米 子 東	18	0	1
第3グループ	米 子 南	25	0	0
	松 江	28	0	1
	松 江 東	31	0	1
	松 江 南	35	0	1
	松江しんじ湖	19	0	1
第4グループ	隠 岐 西 郷	6	0	0
	平 田	9	0	0
	出 雲	34	0	1
	出 雲 中 央	44	1	1
	出 雲 南	17	0	1
第5グループ	大 社	13	0	1
	江 津	18	0	0
	浜 田	19	0	0
	益 田	8	0	0
	益 田 西	10	0	0
第6グループ	大 田	8	0	0
	井 原	33	0	0
	笠 岡	45	0	1
	笠 岡 東	37	0	1
	新 見	19	0	0
	総 社	21	0	1
	総 社 吉 備 路	19	0	0
	高 梁	36	0	1
第7グループ	玉 島	25	0	0
	児 島	23	0	1
	児 島 東	7	0	0
	倉 敷	48	2	1
	倉 敷 中 央	10	0	1
	倉 敷 東	27	0	1
	倉 敷 南	44	0	1
	倉 敷 水 島	6	0	1
第8グループ	倉 敷 瀬 戸 内	39	0	1

グループ	クラブ名	会員	家族	クラブ事務局
第8グループ	真 庭	20	1	0
	美 作	17	0	0
	津 山	38	0	1
	津 山 中 央	10	0	0
	津 山 西	23	0	0
第9グループ	備 前	45	0	0
	岡 山	119	1	2
	岡 山 東	99	2	0
	岡 山 北 西	46	0	0
第10グループ	岡山後楽園	51	0	0
	岡山旭川	36	0	0
	岡山中央	27	0	1
	岡山北	51	0	0
	岡山南	165	2	0
第11グループ	玉 野	30	0	0
	岡山備南	30	0	0
	岡山城	22	0	0
	岡山岡南	4	0	0
	岡山丸の内	47	0	0
	岡山西	78	1	0
第12グループ	岡山西南	47	0	0

会員登録者数	2,029名
ご家族登録者数	12名
事務局登録者数	33名
合 計	2,074名

特別参加者	5名
-------	----

地区大会資料

●地区大会決算報告

◇ 地区大会

(単位：円)

収入の部			支出の部		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
登録料(会員)	18,261,000	9,000円×2029名	事務費	5,646,740	
登録料(ご家族)	72,000	6,000円×12名	運営活動費	1,099,212	会議費等
登録料(事務局)	132,000	4,000円×33名	印刷費	683,040	プログラム他
地区分担金	14,935,000	5,000円×2987名	地区大会記念誌	2,255,000	記念誌作成費 他
パネル作成料	379,500	16,500円×23	来賓接遇費	584,160	宿泊費他
雑収入	4	預金利息	広報費	1,589,260	新聞広告・記録写真等
前年度繰越	1,024,843		補助費	1,466,495	晚餐会他
			総務・渉外部門 計	13,323,907	
			記念事業費	1,841,360	
			表彰関係費	461,545	
			運営企画・演出料	9,424,110	会場設営
			会場費	3,506,580	
			交通警備費	1,221,090	送迎バス・警備員他
			登録関係費	1,192,400	
			感染症対策費	588,480	
			記念講演費	788,965	
			昼食・飲料費	2,271,775	
			大会・飲食部門 計	21,296,305	
			次年度繰越金	184,135	
合計収入	34,804,347		合計支出	34,804,347	

◇ RI会長代理ご夫妻歓迎晚餐会

(単位：円)

収入の部			支出の部		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
登録料	2,490,000	15,000円×166名	席次表 プログラム	283,800	
補助費	1,439,965		宴会費用	2,704,565	
			演奏代	803,000	
			感染症対策費	138,600	飛沫防止パネル他
合 計	3,929,965		合 計	3,929,965	

◇ 地区指導者育成セミナー

(単位：円)

収入の部			支出の部		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
登録料	768,000	6,000円×128名	会場費	794,530	
補助費	26,530				
合 計	794,530		合 計	794,530	



地区大会を振り返って

地区ガバナー 菊池 捷男

Kites rise highest against the wind, not with it.

この言葉は、ウインストン・チャーチルの言葉です。

時は、第二次世界大戦が始まる前夜。チャーチルが、時の内閣の融和策を批判して、イギリスの国威は、ナチス・ドイツと戦うときに最も高く揚がる、ナチス・ドイツと融和したときではないと、声を挙げたときの台詞が、この言葉だったのです。

私は、去年の7月31日、津山ロータリークラブへ公式訪問に行ったとき、コロナ禍の中、地区大会は開催するのかと聞かれて、この言葉を引用し、ロータリーの旗はコロナ禍と戦うことで、高く揚がる、それを降ろしたくない、と答えたものです。

コロナ禍が広がる中でしたが、2020年10月18日地区大会を開催させていただきました。参加者数は1150名あまり、私の想像をはるかに超える参加者数でした。

地区大会が終わった後の10月26日、私が児島東ロータリークラブに公式訪問に行ったとき、チャーターメンバーであられる最長老の方より、その方はこれまで地区大会への参加を欠かしたことはなかったが、地区大会のすべての行事に最後までいたわけではない。しかし、今回の地区大会は、尻上がりによくなっていたので、最後までいた、と言ってくださり、たいへん感激いたしました。

では、今年度の地区大会が尻上がりによくなったのは、どこに原因があったのか?と考えますと、第1は、出席されたロータリアンの皆さんが、コロナ禍蔓延の中だけに、元気を出そう、いい大会にしようという気持ちから、積極的に大会を、最後まで盛り上げてくださったこと、第2は、国際ロータリー会長代理としてお越しいただいた木下光一さんが、また、記念講演をされた宇宙探査機「はやぶさ」の生みの親であるJAXAの川口淳一郎さんが、満場を魅了するすばらしい講演をされたことと思います。要は、地区大会参加者、全員一致の結束が、今大会を盛り上げてくれた原因になったものと思います。

地区大会では、Togetherの効果も見られました。地区大会において、ロータリアンが集まって (together)、胸襟を開いて語り合い、お互いが肝胆相照らす関係を築けば、そこにはさらに親密になった人間関係も生まれ、志を同じくする者の共通する価値観が、新たな関係を作るものと思います。

今回、会長の間で合同例会を開く話ができたと、togetherの効果と評すべきこともありました。

また、新しい試みとして、厳粛な表彰式の中で、明るい笑いを誘い出したと思い、地区大会実行委員会が考え、ユニーク・ロータリアン賞を設けさせていただきました。そして13名のロータリアンを表彰させていただきました。

一方で、失敗もありました。

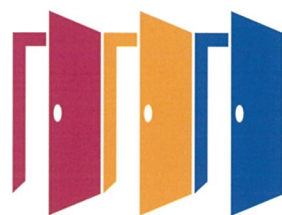
今大会の最後、木下光一国際ロータリー会長代理へ謝辞を述べる時です。私は、会場から私に向けられたロータリアンの方々の、熱くて温かい眼差しを見ていると、感激のあまり、思わず涙が出そうになり、言葉がしどろになってしまったのです。

しかし、そのような失敗も、皆さまは、ロータリアンとしての友情をもってお許しくださるものと思います。

今回の地区大会にご参加くださったロータリアンの方々、ほんとうにありがとうございました。心から感謝申し上げます。

2020-21年度
国際ロータリー第2690地区
地区大会記念誌

発 行：2021年2月
発行者：2020-21年度 地区大会記録委員会
制 作：株式会社山陽新聞事業社
印 刷：山陽印刷株式会社



Rotary Opens Opportunities

主会場 岡山国際ホテル
ホスト 岡山西ロータリークラブ
コ・ホスト 高梁ロータリークラブ
岡山城ロータリークラブ

2020-21年度
国際ロータリー第2690地区
地区大会事務局

〒700-0816 岡山市北区富田町2-7-5 サンワビル302
TEL(086)226-2690 FAX (086)899-8690